

上田西高の教育



第 96 回全国高等学校サッカー選手権大会 3 位

撮影 新聞委員 奈良本 梓 (1-7)

第 62 号 2018. 3. 3 発行

	ページ
ステージの成果として.....	学校長 桜井達雄 2
西高旋風.....	サッカー部顧問 白尾秀人 4
全国高校選抜大会二位.....	陸上部顧問 帯刀秀幸 6
吹奏楽部の成長と新たな挑戦.....	吹奏楽部顧問 萩原敬士 8
上田西高校の主権者教育.....	地歴公民科 森下 暁 10
ステージ週間の取り組み.....	教務係・ステージ週間担当 帯刀秀幸 12
動物保護に私達ができる事は何か？(ステージ週間実践報告1).....	ステージ週間学力向上講座担当 小松麻莉 13
セブ島語学習研修引率を終えて(ステージ週間実践報告2).....	ステージ週間学力向上講座担当 土屋正明 14
【水質調査】報告(ステージ週間実践報告3).....	ステージ週間学力向上講座担当 土屋勇満 15
シンガポール修学旅行.....	2学年主任 澁澤貴与志 16 2学年修学旅行担当 白田 嵩
母校での初担任を終えて.....	3年4組担任 平井進悟 20
家庭学習の習慣化指導.....	1学年進路担当 井口義啓 21
進路を見据えた校外学習.....	1学年ルーム長会担当 山浦 天 22
進路情勢の変化とその対応.....	進路指導係主任 片桐拓磨 24
西高生の活躍.....	生徒会係 生徒会係 25
進路実績.....	進路指導係 28

上田西高等学校

ステージの成果として

学校長 桜井達雄

近年、本校は「ステージの考え方（まずは一つのことでもよいので、全力で取り組めることを探そう）」で教育展開に取り組んできましたが、図1はこのことを在校生徒に訴えた文章です。また図2〜8は本校主催の中学生等を対象にした学校説明会の資料で、これらを見ると本校が目指している教育の概要がご理解いただけるのではないかと思います。図2は本校の教育の特色を〇項目挙げたもので、その内「3、スペシャリストを育てる4つのステージ」については図3、4で、また「8、ステージ週間（課題解決型の学習講座を学校全体で取り組む週間）」については図5で詳しく説明しています（他の項目は今回は省略します）。

平成三十年度からの導入が迫った大学入試制度改革に向けた本校の取組みの説明が図6にあり、この具体として、ステージ週間、夏季休業の充実、語学研修機会の増加、スタディサプリの導入を取り上げこれらについて図7、8で触れています。このように、根本的には「ステージの考え方」の延長線上に大学入試改革への対応があると考えています。例えば「ステージ週間」は主体的な学びの場ですし、「語学研修の充実」は、語学四技能を高める場を目指しています。より一層効果が高まり生徒の学力向上、進路実現につながるものとなるよう質の向上に努めてまいります。

さてサッカー部は、十二年ぶり二回目の全国選手権大会に出場し、強豪校を次々と破りベスト4という県勢初の快挙を成し遂げてくれました。埼玉スタジアムで校歌を斉唱した時の感動は忘れられません。勝因は二つあったように私には思えました。一つはピッチ上の選手全員が自分の役割を自覚して最後まで走り抜き相手に向かっていったこと、そしてもう一つは、ピンチの時ほど声を枯らして大声で励ましの声援を送ったスタンドの部員たちの存在です。彼らの胸中にはベンチ入りできなかった悔しさなど複雑な思いがあるとは思いますが、それを超えてチームのため、選手のために応援していました。部員一〇三名の団結の勝利だったと思います。

一昨年度の硬式野球部の甲子園出場と初勝利、軟式野球部の全国ベスト4、そしてサッカー部の全国ベスト4という快挙、全国出場が常連のレスリング部など、近年運動部の活躍が顕著で、また吹奏楽など文化系部活の活動も活発です。これが本校の教育実践の柱としている「ステージの考え方」の成果であるとすれば、この上ない喜びです。これからも、変化する社会情勢にいち早く対応しながらも、本校創設以来大切にされてきた建学の精神や校訓をしつかり受け継ぎ、正に不易と流行をしつかりと見極めて、守るべきは守りながら、改善すべきは改善する、勇気ある前進を心がけてまいります。（図1、2、8 本校入試広報係作成）



図2

生徒手帳 序（一部改編）

※
本校では、生徒が主体的に活動する4領域を生徒に提供する。生徒が活躍する舞台という意味で、この領域を“ステージ”と呼ぼう。一人ひとりが、この4つのステージのどこかで思いっきり自分の力を伸ばしてほしいと願う。1つのステージでもよいので、全力で取り組んでほしい。

「1つことに全力で打ち込む」という意味で、君たちを“スペシャリスト”と呼ぶ。それは、全日本レベルの選手になれとか、他人を打ち負かせという意味ではない。何かに全力で取り組める人のことだ。

図1

※学び・部活・生徒会・国際交流

①上田西高教育の特色

1. 建学の精神
2. 広大なキャンパスに充実した施設
3. スペシャリストを育てる4つのステージ
4. 進路実現に繋がる学力向上のステージ
5. 語学力を高め異文化理解を深める国際交流のステージ
6. やりがいを感じる部活動のステージ
7. 魅力ある生徒会活動のステージ
8. ステージ週間の導入
9. 自主自立の力を育てる生徒指導
10. 活発なPTA活動
11. 教育顧問制度



学校法人
上田学園

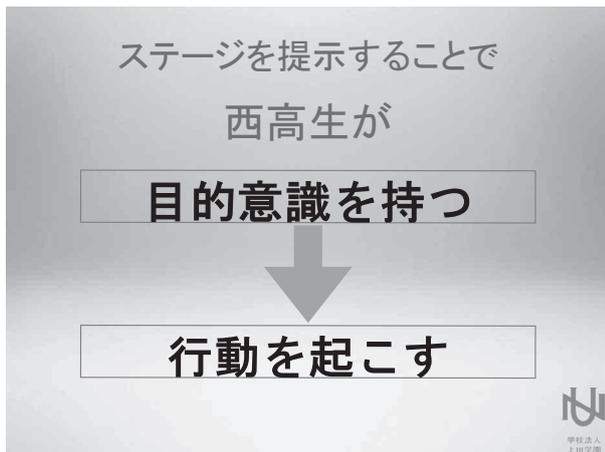


図 4

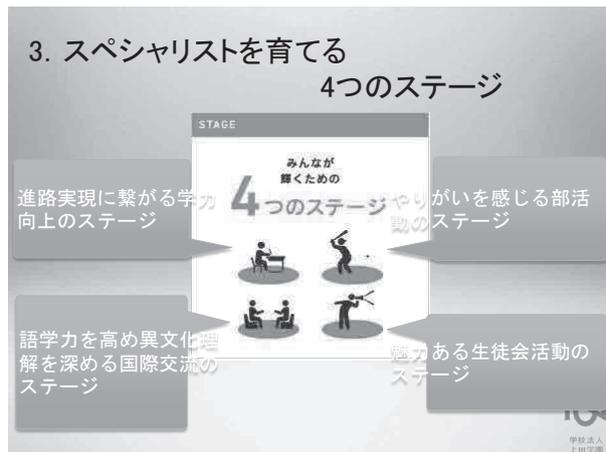


図 3

上田西高校が考える**大学入試制度改革**

【2020年度大学入試改革の要点】

- ①一定水準以上の基礎学力の定着
- ② 教科学力の定着を通して、思考力・判断力・表現力の育成
- ③ 英語教育の4技能（聞く・読む・話す・書く）での育成
- ④部活動や課外の取り組みなど、学校生活全体を充実したものにすることで、課題に対して主体的に取り組む姿勢の育成

図 6



図 5

【上田西高校での取り組み】②

C語学研修の機会の増加
ステージ週間を利用し、短期語学研修の機会を年3回の増加。
ねらい ・より多くの生徒に海外で学ぶ機会を提供。
→ 英語教育の4技能（聞く・読む・話す・書く）での育成
*この他にも1年次にそれぞれの目的や能力に合わせて受講できる英語の選択講座を設定。
「英検対策講座」「ワールドスタディ」「グローバルクラスメイト」「英語基礎」

Dスタディサブリの導入
リクルートのスタディサブリを導入し、個々の学習状況に合わせた教材を準備。
ねらい ・個人にあわせた学習課題に取り組むことで、苦手分野を克服。
→ 一定水準以上の基礎学力の定着

図 8

【上田西高校での取り組み】①

Aステージ週間
夏と春の2回、それぞれ1週間自分が活躍したいと考えているステージ（「学び」「生徒会」「クラブ活動」「国際教育」）に集中できる期間を準備。
ねらい ・自分の適性や志望に合わせてステージや講座を選択。
→ 主体的な取り組み姿勢の育成
・各講座で、課題に対する研究・発表を実施。
→ 思考力・判断力・表現力の育成

B夏期休業の充実
夏休みを34日間設け（ステージ週間含む）、自分と向き合い、個人の実情に合わせた時間利用を推進。
ねらい ・自分の適性や志望に合わせ、オープンキャンパスの参加や課外学習への取り組みなどを実施。
→ 主体的な取り組み姿勢の育成

図 7

西高旋風

サッカー部顧問 白尾 秀人

昨年より上田西高校に赴任して今年で二年目となります。採用されるに当たりまして、理事長先生をはじめ多くの先生方に感謝し出会いと繋がりを大事に大切に感じています。鹿児島県与論島出身の島んちゆのサッカーを通じて学校を盛り上げていくと決め、長野県の強豪私立高で指揮を執ることは大変光栄であると共に結果を出すことの使命感を受け指導に携わっています。

二〇一六年総括

四月からサッカー部の生徒を指導していく中でまず100名近くの部員の名前と顔、プレーの特徴と性格と家庭環境を覚えること。それがまず第一。

とことん誰にでも声をかける。一週間で全て覚えめました。たまに似ている顔に名前を間違えることもありましたが、それはご愛嬌で。選手たちのサッカーに対する意欲は凄くて今でも感心しています。また上田地域の人柄や文化や環境が人を育てるといふことにも関心をもち、生徒達と接しています。

この関係が指導の中での面白さであり、上田西高校サッカー部のひたむきさや真面目さが心にグッときます。

高校総体では、コーチという立場で東信大会準優勝・県1回戦敗退を見て感じたのは、実力はあるが力を出しきれていないということ。何故、いつも通りできないのか、何が足りないのか。目の前にそびえ立つ太郎山と隣に流れる千曲川を見ながら考えました。自然の摂理は当たり前であって、当たり前のように変わら



準々決勝 対明秀日立戦 宮下 廉のゴール後

ず時間は流れている。考えることよりも共にプレーすること、より高い技術と心と戦術を持った全国常連校と練習試合をすることだと自分の経験を踏まえ、選手に足りないものを得るために週末から県外遠征に出かけました。

本田圭佑選手の出身校の星陵高校や前橋育英高校などの全国常連校との練習試合は思った以上に多くの分野で相手とのレベル差を感じました。個人・グループ・チーム戦術、全てが想像以上でスコアも大差がついてしまいます。遠征先から十八時過ぎにバスで帰ってくるとすぐに数人が自主練習を始める。それが相乗効果でほとんどの選手が自主練習を行う。指導者冥利であります。しかし、この伝統を創ってきたのはやはり渡邊善和教頭先生の力であります。もちろん土屋勇満先生や和田直樹先生のご指導があったからこそです。三十年以上指導してきていて選手たちがひたむきに、真面目にサッカーに取り組んでいるのは歴史があるから伝統があるからでしょう。自分自身も地球環境高校で三名の部員から十四名に増やし県大会に出場した経験があるが、チームの創り方や選手の育て方というのは0から経験してみないとわからないものだと思います。自分以上に何十倍も経験があるからこそ、この環境が出来上がっているのだと感じています。そして、七月の選手権抽選会から監督という立場になり、よりいっそうの覚悟と信念を持ち指導を行い、リーグ戦でも連勝しチームも少しずつ自信をつけて高校選手権を迎えました。準々決勝で総体県優勝の市立長野と対戦し1・0で勝利するが、イエローカードの累積で準決勝に保戸塚キャプテンが出場停止で創造学園に必死に食い下がるが1・3で敗退。ここで学んだことは、「いらぬカードを絶対にもらわないこと」と「選手に自信を持たせて、ピッチに送ること」と「選手、マネージャー、スタッフ、応援団など上田西高校に関わる全ての人たちが一体感を持って大会に試合に臨むこと」だと確信しました。

二〇一七年覚悟

新チームになり、新人戦県四位・総体県三位という結果でまたしても準決勝の壁を乗り越えることができない。何かしらチームに対してのアクションを起こさなければ何も変わらない。メンタルトレーニングを高妻谷一先生、チームビルディングを福富信也先生にポアルス長野GMの土橋宏由樹氏に実技講演をお願いし、チームの活性化を図りました。本来高額な費用がかか



帝京大可児戦の円陣

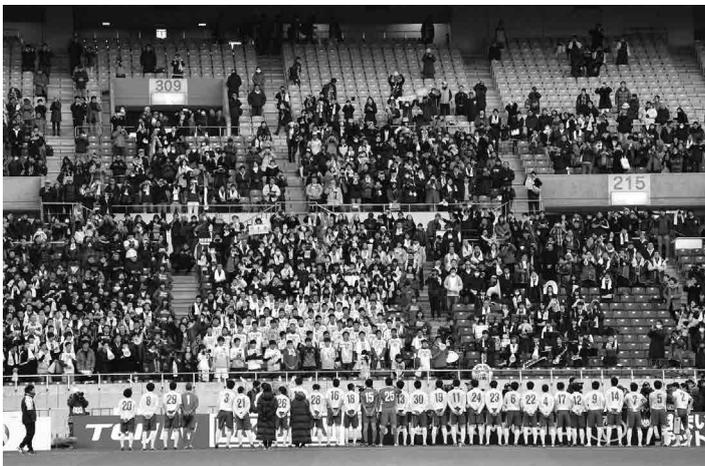
た。また遠征によって、メンバーを入れ代えていたので最後まで選手たちにとってはハラハラした気持ちになったと思うが、それがまたチームにおいて、一人ひとりの役割を果たすことができた要因ではないかと感じました。得点については、「大会中にサッカーの神様が、努力してきた選手たちに微笑んでくれる」と不思議と自信がありました。11月の週末から全国上位の高校生などの練習試合は、あっという間に過ぎ1月2日を迎えました。相手は京都代表京都橘高校。いつも通りに平常心で

るところをチームのために最小限で指導をしていただいたことに人と人の繋がりに深く感謝しています。そして、大久保龍成キャプテンを中心とした三年生の団結力は選手権の一戦一戦ごとに強まって行きました。チームの勢いと団結力と学んだことを生かし、チームの結束力や団結力や意思の疎通、規律・プレーの徹底が個人・グループ・チームと伝わり、念願であった県優勝を成し遂げました。昨年度学んだ警告などのカードは最小限に抑え退場者もなしであった。県大会の決勝戦という最高の舞台で、全力でひたむきに実力以上のものを出せる選手・マネージャー・OB・保護者の一体感、「持つていく能力が半端ない」と感じたまま全国高校選手権に臨みました。全国大会初勝利が未だに無い。過去の全国大会では総体で神奈川県代表桐光学園高校に0・7と山形県代表羽黒高校に0・0でPK負け、選手権では鹿児島県代表鹿児島実業高校に0・5で負け。全国大会の初得点と初勝利を目標に掲げるとその先が見えない。「やるのなら全国制覇」と選手たちに声をかけて拍子抜けた表情は未だに忘れられません。埼玉スタジアムでの準決勝後の表情と全然違い、夢と現実の境目を感じました。やはり、全国大会が一番大事になってくるのが守備力と組織力。そして何よりも雰囲気良くなったことです。常連校のようにしっかりと地を足をつけた立ち振る舞いができてきました。

この大会を終えて感じたことは、夢が現実が変わった時の人間は自信に溢れていて輝いて見えるということ。きっと選手たちのおかげで試合を見た色んな人たちにたくさんの勇気や感動を与えたに違いない。高校までサッカーを続けることを全力でサポートしてくれた選手たちの家族・小学校・中学校・クラブチームで指導や支えてくれた方々に深く感謝しています。上田西高校に来てくれた選手を大事に。縁を大事に。今いる選手を大事に。学校全体で選手成長を温かく見守りながら次の目標に向けて地道に努力していきたいと思えます。

ピッチに向かう選手を見て勝利を確信。ひたむきにボールを追いかけた結果がPKを獲得し上田西高校初得点が初勝利。もう何もいうことはありません。チームに関係するみんなの想いを繋いだゴール。三回戦は風を味方につけ岐阜県代表帝京大可児高校に5・0で勝利。FW陣の努力が実を結んだ結果となりました。準々決勝は茨城県代表明秀日立高校。相手も初の準決勝に向けて勢いのあるチーム。いつも通りの顔をしている選手を見て今日も勝ちを確信。先制されたが、PK・CK・ロングスローの三得点全部がセットプレーからの得点。練習が本番に生きるとは、このことだと深く感じた一日でした。そして準決勝の埼玉スタジアム。日本代表が試合をし、アジアNO1のスタジアム。サッカーを愛する人たちの夢のピッチ。

群馬県代表前橋育英高校とは、多くの縁もあり対戦は複雑であったが、結果1・6。前橋育英高校は、その勢いそのまま優勝しました。優勝チームから得点をあげたのは上田西高校のみ。自信と今後の課題が見えた試合であった。



全国高校選手権 準決勝 対前橋育英戦 終了後 (於埼玉スタジアム)

全国高校選抜大会二位

陸上部顧問 帯刀 秀幸

八月下旬、大阪府長居ヤンマースタジアムで行われた全国高校選抜陸上競技大会において三年生の長谷川潤が二〇〇〇m障害で二位に入り、全国大会での上位入賞を果たすことができました。全国での入賞は昨年引き続き二度目ですが、優勝争いをしての二位入賞だったので喜びも大きかったのを憶えています。

(全国の壁)

私が上田西高校陸上部顧問となつて初めて全国大会に出場したのは昨年の岡山インターハイでした。当時、三年生の西村涼太が北信越高校総体の三〇〇〇m障害で二位に入り、陸上部初の全国大会出場を決めました。西村は高校から陸上競技を始めたにも関わらず、一年生からメキメキと力をつけ、三年時には長野県のトップクラスの選手に成長しました。まだまだ伸びしろがある選手だったので、インターハイでも勝負できると感じていました。しかし、北信越が終わってすぐにシンスプリント（下腿内側）を痛めてしまい六月下旬はほとんど練習を積むことができませんでした。その影響もあってインターハイでは予選敗退という悔しい結果となりましたが、その後の全国高校選抜大会で西村は二〇〇〇m障害で八位入賞をしました。しかし、本来持っている力を発揮させてやる事ができず指導者として悔しい気持ちの方が強く残りました。今年、西村の後を引き継ぐように力を付けたのが長谷川潤でした。西村と同じ三〇〇〇m障害を得意としていて、二年生の時は北信越高校総体で九位となり、インターハイに出場することが

できませんでしたが、その後の県新人大会で優



2000 m障害競技中の長谷川潤

勝、三月の高校伊那駅伝では全国の強豪校が出場する中で一区を走り区間四位で快走をするなど長野県のみならず、全国でも通用する選手へと変わっていきました。迎えた今年の北信越高校総体では二位に入りインターハイを決めると共に、全国ランキング九位の記録を出してインターハイでも入賞を狙えるまでの位置にきました。インターハイでは八位入賞を目標にしっかり練習もこなし万全の準備をして臨んだのですが、予選では本来の走りが全然できず、早い段階で先頭集団から離れてしまい予選通過すらできませんでした。練習を予定通りこなし、調子も良かったのですが、全国大会で決勝に進出しなければいけないというプレッシャーや全国の雰囲気にも飲まれてしまい緊張感の中で本来の力が出せなかったのかもしれない。全国大会で勝負できなかったことに対して、私自身の指導不足を感じました。選手の手心も体も良い状態で試合に送り出すことができず、逆にプレッシャーをかけてしまっていました。全国大会で入賞することは考えているほど甘くはないものだと思いがられました。

(全国選抜での快走)

八月二十六日・二十七日に大阪の長居ヤンマーフィールドで全国高校選抜陸上競技大会が行われました。選抜大会という他競技の競技は冬から春にかけて行われる場合がほとんどですが、陸上競技の場合は冬場の寒い中での競技は故障のリスクが増すため、選抜大会は夏の暑い時期の開催となっております。八月下旬にインターハイがあるため、選抜大会を回避する選手もいます。出場選手をみてみるとインターハイに出場して入賞している選手や、インターハイに出場したけれども結果が出ずにリベンジしてくる選手、残念ながらインターハイには出られなかったけれどもその悔しい気持ちを選抜大会



全国高校選抜出場の長谷川潤と甘利大祐

にぶつけてくる選手など様々な選手が集まります。この大会は誰でも出られるわけではありません。選抜大会には標準記録が定められていて、その標準記録を突破した者だけが出場できます。そのため大会に出場する選手は自ずと力がある選手が集まります。今年、上田西高校からは標準記録を突破した二名、二〇〇〇m障害で長谷川潤（三年）と一〇〇〇〇mで甘利大祐（三年）が出場しました。インターハイでは選手にプレッシャーを与え過ぎたり緊張感を和らげてあげることができなかったため、選抜大会では選手がリラックスできるような状態を作りました。八月二十六日は甘利の出場する一〇〇〇〇mでしたが、競技開始時間が十八時過ぎのナイターだったので、午前中ホテルの部屋で休んでいるのも良くないと考え、選手二人を連れホテルから歩いて2kmほどの位置にある通天閣に行きました。八月の大阪はたいへん暑くて、外に出て歩くだけで汗が吹き出るような気温の中での外出でしたが、選手たちにとって良い気分転換になったのではないかと思います。実際、一〇〇〇〇mに出場した甘利は一〇〇〇〇mの自己ベストを更新する粘りの走りで順位こそ全体で十九位でしたが、全国の強豪相手に堂々とした走りをしてくれました。甘利はインターハイ県予選で7位に終わり、目指していた北信越大会やインターハイに出場できなかったのも、その悔しさを晴らす見事な走りをしてくれたと思います。二十七日は長谷川の二〇〇〇m障害が行われました。長谷川については前述した通り、インターハイでは自分の力を出せずに予選敗退してしまっていたので、選抜大会では過度なプレッシャーを与えないように、優勝や入賞など具体的な話はせず、まず自分の力を出し切ることに集中させました。レースは前半からハイペースとなり、飛び出す選手が数人いましたが、長谷川は冷静に集団の中盤につけてレースを展開していき、一〇〇〇



全国高校選抜 2000 m障害 2位表彰台の長谷川 潤

m過ぎてから二、三番手に上がり、上位を狙える位置につけました。残り五〇〇mから優勝を意識したのか、自ら先頭を引っ張り仕掛けましたが、残り一〇〇mで北海道の札幌山の手高校の選手に先にスパートをされてしまい、優勝を逃し、好タイムながら二位という結果でした。優勝を逃した悔しさはありましたが、優勝争いをしての二位は立派な成績だと思います。選抜大会に出場した甘利、長谷川二名にとって収穫の多い大会となりました。

（速く選手よりも強く選手を目指そう）

高校陸上界はスピード化が進み、私が高校の時には五〇〇〇m十四分前半であればトップクラスであったものが、今では十三分台で走る高校生が毎年数人いるような時代に突入しています。全国的に記録会が毎月のように行われていて高校生が記録を出しやすい環境にもなりました。記録を持っていることはその後のレースを走る上で選手にとって自信になるため記録がある方が精神面においてプラスになることは間違いありません。しかし、選手によっては記録はあるけれども、いざトラックレースや駅伝を走らせてみると持ちタイム通りの力を発揮できない選手も多くいます。私は常々、選手に「速い選手よりも強い選手になりなさい」と話をしています。いくら持ちタイムだけ速くてもレースになって力が発揮できないようでは本当の強い選手とは言えないからです。今回、全国選抜大会に出場した甘利は持ちタイムこそ速いタイムは持っているいい選手ですが、県内の主要大会ではほとんどの大会で入賞をしてきました。一方、長谷川はスピードもあり、走るセンスは抜群に良いものを持っていて調子が良い時は優勝争いをしたり切れのある走りをするものの、ダメなときは中盤からペースダウンしてしまい勝負にならないことが多くありました。試合の安定感や日々の生活や練習に起因すると私は考えています。日々の生活の中で陸上競技を第一に考えながら過ごし、学校生活では授業を集中して受け、何事にも妥協しない、やるべきことはきっちり行い、練習になれば調子良い時も悪い時もその時のベストを尽くして練習をこなす。このような選手が試合でも力を発揮できる選手になると思うのです。全国大会に二年連続で出場させてはいますが、本当の意味で全国に通用する選手を育てていないと感じています。今後全国で通用するような強い選手を育てていきたいと思っています。

吹奏楽部の成長と新たな挑戦

吹奏楽部顧問 萩原敬士

昨年より西高に赴任し、同時に吹奏楽部顧問となりました。私には経験のなかった少人数のバンドをいかにしてレベルを上げ大きくしたらいいかのか。試行錯誤の連続でした。

一年目

「十二年前の前任校での経験を糧に、西高吹奏楽部の名を広めたい。」そんな気持ちを抱き音楽室の扉を開きました。当時の部員は十一名と非常に少なく、今まで大きな編成のバンドを指導してきた私にとって、衝撃の光景でした。音楽は数ではなく音で勝負をするものだと思いつつも、やはり数も大事だと感じた瞬間でした。新入部員を多く獲得するためにはどうしたらよいかを考えました。

- ・ 新入生への声掛けをし、吹奏楽部を見学してもらう
- ・ 経験者をピックアップして、続けてもらう
- ・ ウェルカムコンサートを開く

しかし、吹奏楽部があることすら知らない生徒が多くいるのが現状で、なかなか足を運んでくれる生徒はおらず、コンサートを開くにも特進の生徒の授業の都合でなかなか部員が集まらないなどの課題が山積していました。部員獲得は絶望的かと思っていました。部活動編成時には二・三年生の倍の十一名が入部してくれました。中には初心者もおり、互いが協力し合い切磋琢磨しながら頑張る姿がみられ、二十二名という少ない人数ではありましたが、活気あふれる部活動へと一歩近づけたのではないかと感じました。そんな中、あるイベントのアトラクションで吹奏楽部を紹介していただき、その打ち合わせに伺った時のことです。担当の方から、「西高に吹奏楽部があるとは思わなかった。応援バンドだけかと思ったよ。」と言われました。これはまずいと思い、「何とかこの演奏会を盛大なものにして、多くの方々に知ってもらわなくてはならない。」その一心で生徒とともに練習をしました。

本番では溢れんばかりの拍手をいただき、生徒にとっては大きな励みと自信につながり、私にとってはこの成功で、西高吹奏楽部の名前が広がってくれればと確信した瞬間でもありました。その後、方々から演奏の依頼をいただくようになり、ますます自信と活気に満ち溢れるバンドへと、一歩前進したと思います。

吹奏楽コンクールやアンサンブルコンテストでは一歩及ばず代表になることはできませんでしたが、それぞれ演奏内容も素晴らしく、先に見える結果でした。この他にも各種行事への参加や地域交流などを積極的にを行い、吹奏楽部の存在をアピールする機会をたくさん作りました。

応援

吹奏楽部の活動において応援演奏は大変重要な活動の一つと位置づけています。野球応援では吹奏楽コンクール、サッカー応援ではマーチングとアンサンブルコンテストと重なり大変な面もあります。大変さゆえにつまらなそうに応援に向かう姿の生徒もいますが、応援をしていくうちに調和の世界に引き込まれ、最後は涙する生徒もいます。選手や応援団が一体となり、試合を盛り上げることが、団結力や協調性を養う素晴らしい機会になっていると思います。吹奏楽はこの団結力や協調性がなくてはいい音楽を奏でることができません。また、仲間を応援する気持ちがないと、いくら頑張っても応援してもらえないことはありません。仲間を思いやる気持ちを教えてくれる、素晴らしい機会を与えていただいていることに感謝いたしております。

新たな挑戦

生徒のさらなるレベルアップとあわせて今後の部員獲得、ひいては学校の生徒募集を考えたとき、「マーチングを取り入れたら、やりたい中学生はた



東海マーチングコンテスト (名古屋市)

くさんいるのではないか。また応援でも活動がしやすくなるのでは。」と考
えました。多くの生徒が不安を抱えていましたが、スキルアップするため、
活動の幅を広げるための話を理解し、最終的には挑戦することで話がま
とまりました。基本的なマーチング用語の勉強や、それにリンクした動きな
ど覚えることは多く、通常の吹奏楽活動に加えて練習をしなくてはならない
ため、倍の練習量をこなすことができるのか。短時間で大量の知識を習得で
きるのか。課題は山積みでしたが、まずはやってみよう！と少々強引ではあ
りましたが、本格的にマーチングを開始することになりました。初めての経
験に戸惑う生徒もいましたが、新しいことに挑戦する生徒たちの姿はとて
も輝いていました。私の心配をよそに、生徒たちはたくさんの技術と知識を習
得し、新入生を迎え入れる準備を短期間で行いました。生徒たちのバイタリ
ティにはとても驚かされました。二〇一七年の新入生は、二・三年生十三名
に対し十三名と、前年に引き続き倍の数の生徒が入部しました。その中には
初心者もいますが、マーチングをやりたいという新入生もおり、勢いのある
部活へと変わることができました。私の希望でもありましたが、生徒たちの
強い要望もあり専用のユニフォームを作成しました。グリーンを基調とした
爽やかなユニフォームに仕上がりに、周囲の反応がとてもよく、「是非あのユ
ニフォームを着たい」という中学生が多くいると聞きます。こうしたハード
面を整えていくことで、生徒たちの責任感や士気も高まり、より活発な活動
ができるようになりました。

マーチングと各種行事の両立は、初めてマーチングを行う生徒にとっては
とても容易なことではありませんでした。練習が本格的になる時期に、野球
応援や文化祭といった大きな行事が重なります。時間に追われながらの練習
は、精神的にも肉体的にもとても辛かったと思います。しかしながら、生徒
たちはそれに耐え行事をこなしました。それは部に勢いがあり、生徒たち一
人ひとりが力をつけた証拠であると確信しました。

初めて挑戦するマーチングコンテストは私と生徒たちにとって未知の世界
でした。どんなに練習をしても答えが見つからず、やればやるほど不安にな
るだけの状況でした。しかし、たまたま学校を訪れたマーチング経験のある
楽器店の店員の方が練習の様子をご覧になり、「初心者としては完成度が高
いので、このまま維持させて細かい部分を少し修正すれば、何も言うことな

いですよ」と言っていただけ、自信を持って取り組むことができるようにな
りました。練習の際には体育館や駐車場を貸していただき、伸び伸びと練習
することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

コンテストでは、ニューカマーの部に出場しました。この部門は、始めて
間もない団体が二年間に限り出場できる部門で、今年は西高を含め二団体が
出場しました。二団体ともに優秀賞を受賞して長野県代表として東海大会に
出場することができました。東海大会では、「長野県大会のミスゼロにし、
代表として恥じぬ演奏をして最優秀賞を目指す」という目標を掲げ練習に励
みました。本番会場は有名アーティストのコンサートや、スポーツ競技の国
際大会などが開催される愛知県名古屋市の日本ガイシホールで行われま
した。その広さと観客の多さに圧倒されましたが、生徒たちはそれに負けな
い堂々とした演技をしてくれました。結果は優秀賞を受賞し、最優秀には一
歩及びませんでした。未
来につながる最高の舞台を
経験させていただきました。

今後の展望

まだまだ未熟な団体です
が、この二年間で生徒たち
の意識は劇的に変わったと
思います。縦と横のつなが
りを密にし、楽しくなおか
つしつかりと活動のできる
組織作りを生徒とともに工
夫し考えていきたいと思っ
ます。私自身も未来ある子
どもたちが伸び伸びと活動
できる環境づくりと、生徒
一人ひとりの夢実現のため
努力したいと思います。



長野県吹奏楽コンクール県大会（伊那市）

上田西高校の主権者教育

衆議院総選挙の模擬投票を通して

地歴公民科 森 下 暁

はじめに

上田西高校では、二〇二二年の衆議院総選挙の時より、国政選挙に合わせて模擬投票を実施している。この取り組みは当初は選択科目「政治経済」を受講している生徒を中心に実施していたが、昨年度の参議院選挙の時から、選挙権の十八歳への引き下げを受けて三学年全員での取り組みとした。また今年、特進コースがカリキュラム変更で一年次に「現代社会」を履修することになったことから一年特進コースの生徒に対しても模擬投票を実施した。

二〇二二年	模擬投票実施選挙	対象生徒
二〇二二年	第四十六回衆議院総選挙	三学年 選択政治経済受講生
二〇二三年	第二十三回参議院通常選挙	三学年 選択政治経済受講生
二〇一四年	第四十七回衆議院総選挙	三学年 選択政治経済受講生
二〇一六年	第二十四回参議院通常選挙	二学年 特進選択現代社会受講生
二〇一七年	第四十八回衆議院総選挙	三学年全員 一学年特進コース

本校が、模擬投票を実施してきた背景は、「教室の学問を社会とつなげたい」「私たちの生活や社会を自分たち自身の手で作っていくための手段を、現実感を持って捉えてほしい」と考えたからだ。学校の授業は当たり前ではあるが卒業後社会に出て自ら生きるために役立てていくためのものである。しかし、実際には多くの学習が「学校の授業」という枠の中で完結し、社会に出てから有効に活用されていないと感じることがある。今後社会に出ていく高校生に、高校で学んだことが自分の社会を作っていくことに必要なことであるという意識を少しでも育てることができればと思ひ、そして、そのためにはリアリティのある学習が欠かせないのではないかと考え、この授業を計画し実施している。

実施内容

本年度の主権者教育の実施概要は次のとおりである。

(1) 実施科目

- 三年 必修現代社会（進学）コース・【特進】コース 三〇八名
- 一年 必修現代社会（特進）コース 四十五名

合計三五三名

(2) 担当教員

(3) 実施日

- 森下 暁・町田 耕・西村智世・和田直樹
- 事前学習 平成二十九年十月十日～十月二十日 各四時間
- 模擬投票 平成二十九年十月二十日（金）昼・放課後（自由投票）
- 事後学習 平成二十九年十月二十二日以降 各一時間

(4) 学習の目的

- 主権者として必要な正しい選挙知識を身に付けさせる。
- 模擬投票を通じて、投票行動に対する心理的障壁を軽減させ、実社会においても主権者としてあるべき投票行動を実践する姿勢をはぐくむ。

授業の展開

今回は、三学年すべてのクラスでの実施となるが、ここでは、私が担当した三年六組の授業を中心に展開についてまとめた。

○事前学習

一時間目 「選挙のしくみと課題」

授業プリントを利用し、選挙の原則、選挙制度、衆参の選挙の相違点、選挙権の変遷、投票率の現状確認と課題について学習。ここでは特に、若者の投票率が低いことで、政治の方向性が投票率の高い高齢者に向いてしまう可能性があることを理解させ、投票率を上げることがただその事だけでも選挙には大きな意味があるという事を理解させることに努めた。

二時間目 「政党と利益集団」

授業プリントを利用し、政党と利益集団、五十五年体制からの政党の変遷について学習。その上で衆議院での投票方法、特に比例代表の投票方法と名簿順位・重複立候補・惜敗率について実際の名簿を利用し学習。

三時間目 「公約比較」

ワークシートと信濃毎日新聞の記事を利用し、小選挙区の立候補者の選挙公約及び、比例代表での届け出政党のマニフェストを比較。また、自分たちが大切にしたい争点をグループごとにまとめた。

四時間目 「クラス討議」

前時の学習内容で上がった自分たちの大切にしたい争点をグループごとに発表した。この学習を通じて、それぞれに大切にしている点が違うという事に気付いてもらい、また、あわせて違う世代の人はどのように考えるかについても考えるように促した。

五時間目 「投票目的の確認」

各政党がどのようにとらえているかを新聞記事の各政党のマニフェスト比



模擬投票の様子

較を利用しまとめる。この学習では、最終的に自分が投票に行く際に何を基準に投票するかを明確にすることを意識させるように努めた。

○模擬投票

実施概要

日時…十月二十日(金)お昼休み十二時～十二時三十分及び放課後十六時～十九時
形式…自由投票
場所…柔道場
選挙立会人…三学年ルーム長会に依頼



可能な限り現実に近いと考え、投票に関しては完全自由投票(投票の有無を成績等に反映させない)とし、投票先も上田市に在住していることを前提にし、小選挙区は長野三区、比例代表は北陸信越ブロックで投票を実施した。

お昼の初めの時間は、多くの生徒が投票しに来た。しかし、中盤になると昼食の時間を確保するためか出足は鈍くなった。放課後は、部活動や行事等もあり、思ったより投票に来る生徒は少なかった。また、生徒の中には、十八歳で選挙権を持っている人は実際の投票に行けばいいので模擬投票をしなくてもよいという考えもあったようだ。最終的な投票率は49・1%(長野三区の投票率は60・3%、全国の十八歳十九歳の投票率は41・5%)にとどまった。選挙はどうしても自分の一票が社会に影響しているという実感を持ちづらいものである。模擬投票ではその思いはさらに強まることも予想された。だからこそ、模擬投票で結果を示すことがどういった意味があるのかを事前の学習で丁寧に伝えなければいけなかったのだが、その浸透がうまくいっていなかったのではないかと大いに反省させられる結果となった。最終的に投票結果は次のとおりである。

小選挙区		本校の模擬投票		実際の選挙	
立候補者	政党	得票数	得票率	得票数	得票率
木内 均	自由民主党	75	44・6%	74	31・1%
井出 庸生	希望の党	73	43・5%	127	53・1%
小金沢 由佳	日本共産党	12	7・1%	5	2・0%
及川 幸久	幸福実現党	5	3・0%	4	1・6%
白票・無効票		3	1・8%	687	27・5%
合計		168	100・0%	2394	94・3%

比例代表

届け出政党	本校の模擬投票	実際の選挙
得票数	得票率	得票数
公明党	24	19・23%
獲得議席	2	2

○事後授業

日本維新の会	幸福実現党	社会民主党	自由民主党	希望の党	日本共産党	立憲民主党	白票・無効票	合計
7	2	4	54	47	13	12	663	1663
4%	1%	2%	32%	28%	8%	7%	2%	99%
4・06%	0・52%	2・52%	37・29%	19・23%	7・47%	19・52%	2	1952
0	0	0	5	2	1	2	2	20

まとめ

主権者教育とは、その社会を作り出すために自分のできるか、何をすべきかを考えることを通じて、自分が社会の一員であることを自覚していく活動であると考えられる。そうであるならば、今回の模擬投票の実践は、「投票」そのものがメインというより、その前後の学習において、自分が社会に対してどのように関わっていくかを自覚し考え、投票の結果から自分たちの思いが社会にどう伝わるかを考察することに意味があるといえる。そして、その学習の意味が生徒に浸透したかどうかを、そういう意味では、今回の投票率の低さは、そう言った教師側の思いが授業を通じて生徒にうまく伝わっていきなかったとも言え、大いに反省させられる数字であった。

本校で、模擬投票を実施するようになってから六年たつ。模擬投票の実施についてのノウハウはしっかりと蓄積することができている。次は高校生が社会の一員として自覚できるような授業展開を検討し、さらに深化させることが今後の課題といえる。今後も模擬投票という一つのコンテンツを十分に生かし、主権者としての若者を育てていきたいと思う。



事前学習マニフェスト比較

ステージ週間の取り組み

教務係 帯刀 秀幸

1、はじめに

「ステージ週間」の取り組みは昨年度初めて実施され、今年で二年目を迎えました。昨年は初めてのことだったのでステージ週間の基盤を作ることを重点的に行いましたが、二年目の今年は昨年一年間実施してみても先生方から出された意見や反省を活かし、講座の内容の充実はもちろんの事、生徒が興味関心を持ち、生徒自らが積極的に課題解決に向かえるような講座の設定を大事にしました。また、今年は講座の内容を生徒に事前に理解してもらい選択できるような取り組みとして各講座にシラバスを作成してもらいました。シラバスには講座の内容の他に、ステージ週間中の行動予定、費用、募集人数、評価、講座をとる際に生徒に求められる点などを記載し、生徒が各講座についてイメージしやすくなるような工夫をしました。また、ステージ週間で行った内容をパワーポイントで発表する発表会では、発表後に全校生徒に印象に残った講座に投票をさせ、生徒が講座発表に関心を持って聞けるような取り組みも行いました。

2、ステージ週間の概要

(1) 目的

本校では日頃から、生徒が活躍する舞台として4つのステージ（学力向上・クラブ活動・生徒会活動・国際交流）を提供している。生徒各自で取り組み、ステージを選択し、探究活動や課題解決型活動に主体的に集中して取り組み、21世紀型学力の育成、推薦入試等に役立つ活動を体験する。

(2) 日程

夏：8月21日（月）・22日（火）・23日（水）・24日（木）・25日（金）五日間
春：3月8日（木）・9日（金）・12日（月）・13日（火）四日間

(3) 実施内容

ステージ	部活動	国際教育	生徒会活動	学力向上	学力向上
対象	強化部活動	希望者	生徒会役員	特進コース	上記該当者以外
内容	各部活動 遠征	CCG他短期留学参加者	生徒会活動	勉強合宿・補習	課題解決型講座
活動主体	強化部	国際係	生徒会係	進路指導係	教務係
担当	各部活動顧問	国際係短期留学引率者	生徒会顧問	進路係特進担任	上記以外職員

3、講座内容

ステージ	講座名	対象生徒
部活動	硬式野球部	硬式野球部員
部活動	サッカー部	サッカー部員
部活動	レスリング部	レスリング部員
部活動	陸上部	陸上部員
部活動	硬式テニス部	硬式テニス部員
部活動	女子バレー部	女子バレー部員
部活動	剣道部	剣道部員
部活動	軟式野球部	軟式野球部員
部活動	吹奏楽部	吹奏楽部員
国際教育	セブ島語学研修	セブ島語学研修参加者
生徒会	生徒会	生徒会総合本部役員
学力向上	勉強合宿	特進クラス1年・2年
学力向上	「書」に親しむ	特進3年・特進クラス3・6
学力向上	動物学	一般生徒
学力向上	二進法と暗号	〃
学力向上	ゴルフ実習（初級）	〃
学力向上	動物保護に私達ができる事は何か？	〃
学力向上	100% English	〃
学力向上	Project-change	〃
学力向上	自分の可能性を探る	〃
学力向上	就職対策講座	〃
学力向上	理工系大学研究	〃
学力向上	美美的	〃
学力向上	自己表現としての翻訳講座	〃
学力向上	夏の天体観測	〃
学力向上	水質調査	〃
学力向上	西洋占星術と食事について	〃
学力向上	読解・理解・自己表現	〃
学力向上	Gender Equality(男女平等)について考える	〃
学力向上	スタディサプリで経済・学校・仕事を考える	〃
学力向上	30・10運動	〃
学力向上	難関公立大学二次試験、難関私大試験のための世界史演習	〃

4、総括

二年目を迎えたステージ週間ですが、講座内容の充実が目につきました。シラバスを講座ごとに作成したことは、生徒が講座を選択する際にわかりやすくなったという点はもちろんの事ですが、我々教員も講座を設定する際にどのような講座にしていきたいのか、生徒たちに講座を通じて何を学ばせた

いのかを確認する作業となり、シラバス作成は非常に意味のあるものになったのではないかと感じています。今回の課題解決型の学習はバラエティに富んだものが数多くありました。しかし、まだまだ色々な分野に学習することは存在していて、日常生活の中で、生徒たちが「なぜ」「どうして」と感じることに講座を作るヒントが隠されているのではないかと思います。二年目でまだまだ不完全なステージ週間ですが、今後も回数を重ねていく中で更に改善していきます、生徒にとって意義のあるステージ週間を作り上げていきたいと考えています。また、桜井校長先生がこのステージ週間を提案していただき、少しずつではありますが、形になってきているので、先生方の協力を得ながら後退するのではなく、前進していけるように取り組んでいきたいと思っています。

ステージ週間実践報告1

動物保護に私達ができる事は何か？

国語科 小松麻莉

生徒たちに「『動物保護』と聞いて、現時点で自分が分かる事を教えて下さい」と質問をしたところ、多くの生徒から「殺処分」「動物愛護団体」というキーワードが出た。では、何が「殺処分」なのか。「動物愛護団体」とは、どんな事を行っているのか。そこで、このステージ週間を使い直接、動物愛護センターと譲渡を行っている猫カフェへ行き、講師の方々からお話を聞く事にした。

まず、「動物愛護団体」とは、「NPO」という身近な問題を自分達の手で解決したいという情熱や思いを基調に活動している団体の中にあるもので、捨て犬、捨て猫の保護並びに飼い主探しや保健所や保護施設に連れて行かれた犬猫、もしくは捕獲された犬猫の殺処分を減らす運動をしている。「殺処分ゼロ」を目指していたり、里親会を開催したり、多頭飼育崩壊現場にレスキューとして入隊させたりもしている。基本的に、里親探しがメインだが、探すと言っても難しい。全ての動物が人間に懐くわけではない。地域猫活動といった、野良猫に不妊手術を実施し、これ以上不幸な仔猫が増えないようにし、一代限りの命として地域で餌をあげて世話をする所もある。里親を探す方法としては定期的に里親会を開催したり、保護猫カフェを運営したりする。特に、保護猫カフェは、譲渡してもらう猫を探す人だけの場所ではないので、気軽に行きやすい。入店料や飲食



保護された犬と関わる受講生

代は活動費にまかなわれるから、お店に行くだけで動物愛護活動に参加できる。

しかし、愛護団体にも様々な悩みがある。ボランティアや飼育スタッフの確保が難しい事だ。動物が好きだからと言うだけでは出来る活動ではない。安らかに看取るために保護された動物のお世話をする事もある。怪我をして包帯だらけの動物も居れば、人間に懐かない動物も居る「動物が大好き」だけでは乗り越えられない現実も多く、長続きしないスタッフも多いとの事。また、運営資金での問題も多く、保護した動物の飼料、医療費、トイレの砂等の寄付を募っている所は多い。特に医療費は高く、ワクチンや寄生虫駆除、不妊手術は絶対に必要な所。どうしても削れない経費。「削れる経費は人件費」という事ではない状態の所もある。欧米では数万人単位の会員の支援や、多額の寄付金を受けて活動している団体が多くあるが、日本ではまだNPO活動に対する国民の理解が低く、活動会員やサポーターからの支援で活動ができていない団体は少ない。政府や助成財団からの助成金を受けるのも簡単ではない。助成金を得られた場合でも用途が活動経費のみで、専従者や常勤者への給与手当に用いることが出来ないことや、金融機関からの融資が得にくいことから財政面で苦労している団体はたくさんあるに違いない。直接お手伝いには行けないけど、動物愛護活動に参加したいという場合は、寄付だけでも有効な助けになる。

「動物への虐待、動物の殺処分」の現実を知り、生徒達は辛い現実と向きあったり、動物と触れ合うのが難しいと感じてしまったりする事もあった。生半可な気持ちで受講した生徒も、この講座で多くの事を学び、考え方も変わってに違いない。将来この講座を活かして行きたいと強く希望した生徒達がいいたのなら、それも一つの素敵な彼らなりの「動物保護活動」だと私自身は思う。

ステージ週間実践報告2

セブ島語学留学研修引率を終えて

理科 土屋正明

本講座では、フィリピンのセブ島にある First English Global college へ語学留学することで、英語運用能力の向上を目的としていた。今回は教員代表として引率し、生徒には日本とフィリピンとの英語教育の違いに注目して英語を学びつつ、自ら進んで、受け身にならないよう積極的に英語を駆使して現地の方々と交流してほしいと考えていた。個人的には以前から英語を勉強して少しでも話せるようになりたいという思いがあったことや、フィリピン



保健所で保護された犬

の環境や文化の違いにも興味があったため、生徒と似たモチベーションを持って私自身も非常に楽しみであった。

生徒より時間は少ないものでしたが、私自身も授業を受講した。一日目の授業を終えて、最初に感じたのは「英語を学ぶ楽しさ」である。学生時代は英語に対して苦手意識があったため、なかなか理解することができず、正直大変であった。しかし、実際に授業を受けてみると日本の授業とは異なり、痛烈に感じたことは、前提としてどの授業でも、「英語を話せるようになること」を最終到達点に設定した授業であるように感じた。書いて覚えるというより、話すことですぐに実践的に学んだ英語を駆使できるため、英語を話せているという実感が湧き、楽しく、そして面白く感じた。生徒の場合には私よりも倍以上の授業数だったため、その感覚をより多く感じたはずだと思う。また、留学時のカリキュラムはその行き先によって大きく変わると思うが、今回の学校では朝八時から夕方十七時二十分まで計八コマの授業を受けるため、英語漬けの一日である。さらに、一人ひとりの生徒にマンツーマンで教員が指導するため、自分のペースでゆつくりと授業を受けることもでき、生徒のレベルに応じた指導ができる環境であった。これは現在の日本における学校の仕組みではなかなかできないことであるため、貴重な経験であり、羨ましく感じた。また、日常的にも英語を使わないと話が伝わらないため、自然と英語を使わざるを得ない状況であったが、ストレスをあまり感じず、むしろなるべく英語で伝えようという意識が芽生え、英語に対する姿勢が良い方向へと変化していった。したがって、英語を使う機会も日本とは比べものにならないため、飛躍的に英語能力を向上させることができると感じた。授業が詰まっていた四七日目の間、生徒も最初は英語ができないという不安から顔がとても暗く、授業終了後、先生が何を言っているのかが分からないと私に不満を吐いていた。しかし、最終日が近付くにつれて不安な顔もなくなり、むしろ積極的に現地スタッフの先生と楽しく話したことを私に伝えてくれた。そして最終日には連絡先を聞いたりでできる程仲良くなっており、生徒にとっても本当に貴重な経験をすることができたと思う。

もう一つ、授業の中にプレゼンテーションとダイバートの授業があったことは驚きと感動だった。各グループに生徒はランダムに振り分けられており、生徒は高校生だけではなく、中学生から大学生、社会人まで留学している学校であったため、グループ分けで幅広い年齢の方々とも交流ができ、本講座の生徒も社会人やインターンの大学生とプレゼンテーションのクラスを組んでいた。英語力だけではなく、社会人として今後必要にな



語学学校入口

るコミュニケーション能力や論理的な思考力を鍛えることも授業の中に組み込まれており、海外の会社でも英語で表現できる能力を身につけることも考えられているように感じた。

九日間生徒を見てきた中で、留学前と比べて本講座の生徒たちの英語能力は明らかに向上したと感じた。今回の留学期間は一週間であって、実際留学している他の生徒の多くは二週間以上の生徒がほとんどであった。なかには、一カ月留学している中学生もいた。生徒の中にはもう少し残っていたかったとぼやく者もあり、彼らにとってはようやく英語が少しずつ理解できるようになって楽しくなり始めたようだった。ただ、その気持ちも授業に対する姿勢がこの一週間で形成され始めたからこそ思うことであり、これからの学校での英語教育や他の授業でも「学ぶ姿勢」をつくることで改めて重要だと感じた。グローバル化が進み、英語教育が重要視されている現在の日本の教育においても根本的な部分は同様であると学べたことが、私自身一番の収穫であった。



セブ島語学研修参加者

ステージ週間実践報告3

【水質調査】報告

理科 土屋 勇 満

本校は千曲川の河川敷に隣接、立地し、豊かな自然環境を有し、環境教育を行う上で最適な立地条件であるといえる。このような優位性を自然科学教育（生物教育）で生かせる道はないかと模索してきた。また、本校は教育活動で、ステージ週間（五日間）という講座別の課題解決型学習を展開している。本校では、この週間を文部科学省の考案する新テスト導入に向けた、課題解決型学習の試行的な実施期間として位置付けている。

平成二十八年年度、本ステージ週間において、私は千曲川において河川水質調査を実施した。国土交通省の「せせらぎサイエンス事業」の水質調査の調査方法を用いて、講座「水質調査」選択者三十名を、六班に分け、千曲川本流の3地点（上田市河川浄化センター前、鯉西前、神川合流点）において水質調査を実施した。その結果は、三地点とも階級Ⅰ（きれいな水）というものであった。この結果を、web上の日本全国のデータと比較して、千曲川の河川の特徴を考察した。

この経験を基に、本年度ステージ週間「水質調査」において、この取り組みがより効果的な教育効果をもたらし、また、経年観測により千曲川水質を環境変動のモニタリングとして機能をさせていきたいと考えている。

A 教育目的

1、環境教育、生物教育の推進

①生徒の身近な環境への関心を呼び起こし、自然環境を慈しむ態度の養成を行う。

②生物観察のための基本的技術（採取、顕微鏡使用法、スケッチ）の向上を図る。

③化学実験の基本的技術（ウインクラーク法）の向上を図る。

④本研究を生徒のアクティブラーニングとして位置づけ、自ら課題を設定し、それを解決し、新しいことを発見するというサイクルを通して、新テストへむけての技能の向上を図る。

2、環境変動のモニタリングとしての千曲川水質調査

B 具体的な実施方法

1、実施日…本校ステージ週間、平成二十九年八月二十一日(月)～二十五日(金)五日間

2、調査人数…生徒三十六名(九班編成)

3、調査地点…本校から南東方向、千曲川沿い地点(本流、支流)下の図を参照

4、調査方法

(1)国土交通省「せせらぎサイエンス事業」の河川水質調査による水質判定

①石の下に棲息する底生生物の採取

②指標生物による水質判定

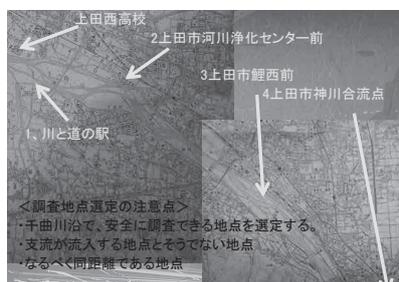
③水温、流速、pHの測定

(2)コドラート(50cm)を利用し、この枠内の全ての石を採取し、その石の下に棲息する底生生物を採取する。その後、研究室で個体数、体重を測定する。

その地点での優占種、そして、魚餌動物の生産力を求める。これによ



調査地点5



調査地点1～4



コドラートによる調査



研究室での水質調査

C 今年度の結果

り、食虫性魚類の生息数に影響が出ると考えられる。

(3)底生生物の外来種の割合の調査

きれいな水の指標生物として、ナミウズムシ(プラナリア)が利用されるが、近年、外来種のアメリカツノゾウムシが発見されるようになってきている。在来種と外来種の比を経年観測によりデータを蓄積していく。

(4)パックテストによる水質判定(硝酸、アンモニア、リン、COD、BOD)

(5)ウインクラーク法による溶存酸素量の測定

以上より、環境変動のモニターをしたいと考えている。また、国土交通省による指標生物による水質判定と、パックテストによる水質判定の比較も行う。多様な手法を用いて、千曲川の水質環境の変化をモニターしていきたい。

地点1 川と道の駅……………水質階級I (きれい)

2 上田河川浄化センター前……………水質階級I

3 上田市鯉西前……………水質階級I

4 神川合流点……………水質階級I

5 神川上流……………水質階級I

以上より、多人数で多くのデータを採取して、経年観測をすることで、千曲川の環境変動の判定の土台となるデータを蓄積できると考えている。

シンガポール修学旅行

2学年主任 澁澤 貴与志
2学年旅行係 白田 嵩

担任としてクラスを預かり、気付けば二年生の二学期。あつという間にここまで来たような気がしている。まだ気が早いのは重々承知ではあるが、卒業まで後一年と三か月。卒業後に、クラスの生徒たちが高校生活の中で一つ思い出を挙げるとすれば一体何になるのであろうか。上位大会を目指し切磋琢磨した部活動、希望進路を叶えるために取り組んだ勉強、クラスで協力した文化祭やクラスマッチ。気が置けない友人たちと過ごした日々。いろいろあるであろう。しかしその中でも修学旅行は必ず上がって来るものだと思う。

高校生活では多くの行事があるが、三年間で一度しかない行事が修学旅行である。その最大の行事である修学旅行が、十一月五日（日）から十一月九日（木）の五日間にかけて実施された。昨年度までの台湾から変更になり、本年度の行先は地理的にも民族的にもアジアの十字路口であるシンガポールだ。シンガポールは様々な民族・言語が混在している国である。マレー系に始まり、人口のほとんどを占める中国系、英国の植民地時代に労働者としてやってきたインド系やアラブ系。その他にも様々な民族が住んでいる。日



交流校での学習

本は海外からの旅行者こそ多いが、民族はそれほど多様ではない。日本に住んでいる我々からすれば、どのように人々がお互いの文化を尊重しながら生活をしているのかは、想像するのが難しいところだと思われる。加えてシンガポールは目覚ましい経済発展を遂げ、「東南アジアの奇跡」と呼ばれるに至った国である。日本人としてもそうだが、これからの時代を背負って立つ高校生にとっては大いに勉強になる国であり、いい刺激を受けられるのではないかと考え、学年団で修学旅行に向けて準備をしてきた。



シンガポール・リトルインディアにて

修学旅行の目的は大きく分けて次の4つがある。①国際交流、②生徒主体による集団行動、③海外での異文化体験、そして④歴史学習である。

①日本においてもグローバル化という言葉が叫ばれ、メディア等のあらゆる媒体を通じて上田に住んでいようともグローバル化の波が押し寄せてくるのを感じる日々が続いているかと思う。大学等にも国際関係の学部が増加しており、それだけ社会にニーズがあるのだと実感している。事実、高校生の志願者も年々増加している。では実際に高校生がグローバル化の進む社会を生きていくために何が必要かと考えると、「経験」だと思われる。今回の修学旅行では、生徒はその「経験」を積むことができたのではないかと思う。

そのためには、ただ修学旅行で観光地等の見学をするだけでなく実際に生徒が現地の方と話す機会が必要である。できれば現地の学生と交流する機会を提供したいと、シンガポール内での交流を模索したが、10クラスという大所帯であったため、当初学校交流の実施が困難かと思われた。しかし、国際交流担当の先生方のおかげで無事に実施することができた。

学校交流はシンガポール国内の3か所に分かれて行われた。学校ごとに、事前のビデオコール等で現地の学生や先生方と打ち合わせや顔合わせを行った。加えて、ルーム長会を中心として交流会で披露するダンスの練習をし、現地で発表をするようにパワーポイントで文化や地理などをまとめたスライドの作成を行った。事前の準備の甲斐があり、どの学校においても充実した交流ができたようである。

私自身が担任として引率をしたのはカプランと呼ばれる学校である。シンガポールの中心に位置し、商業施設の2階に位置するカプランは開放的な雰囲気であり、まさに海外の学校といった様子であった。全体会の後に、クラス毎に英語での授業を受講した。内容は、旅行会社で働いていると仮定し、シンガポールに住む人々に日本への旅行を提案するとすれば、どんな場所のどんなものをプレゼンするかを班ごとに考え、まとめるというものだった。すべてが英語での授業であったため、生徒たちには非常に高度であったように感じたが、懸命に取り組んでいた姿が



チャンギミュージアムでの学習

印象的であった。「もつと英語が話せれば。」という声も聞えてきた。

午後はB&S（ブラザーアンドシスター）プログラムを行った。現地の学生に案内をしてもらいながらシンガポールの街の散策をするプログラムである。英語で受けた授業とは異なり、各班に1名現地の学生がつくため、一人ひとりが英語で会話をする機会は増えたように思われる。自分が行きたい場所を説明したり、分からないことを聞いたり、必要に駆られてではあるかも知れないが、貴重な経験になったと思われる。

②修学旅行は生徒の自主規律の育成の場でもある。公共交通機関を利用し、一般の方もいる中で自分たちの行動を見つめなおす必要があるからである。今回の旅行において大きな役割を果たしたのが制服の存在だったかと思われる。旅行の際に、制服で行動することへの心配の声も聞いたのだが、実際は制服を着用することで、学校行事であることを再認識し、自分達がどのように見られているのかを意識しながら行動することができたと思う。加えて、海外という慣れない土地においても周りに同じ制服を着た生徒がいることの安心感は大きかったようである。迷子になる心配も激減したのではないだろうか。

また、ルーム長会の生徒たちも多くの協力をしてくれた。クラス毎の



マーライオン公園にて

点呼、平和セレモニーの進行、毎晩疲れている中でルーム長会。頑張っているクラスのルーム長たちの姿を見て、周りの生徒もそれに応えようとしていたかと思う。修学旅行を通じて、クラス内の人間関係も縮まったように思う。

③今回が初めての海外だという生徒も多くおり、出入国の手続きをして、初めてパスポートにスタンプが押されて喜んでいる生徒も多く見受けられた。無事にシンガポールに到着し、空港の外に出た瞬間に生徒たちから「蒸し暑い。」という声が上がった。内陸の県で生活をしている生徒たちにとって、海に囲まれた南国であるシンガポールの気候は肌で感じ取ることができる1番の体験だったのだと思われる。その気候によって現地の人々はどうのような服装をして、どのようなものを食べているのかも市内の観光の中で見る事ができた。日本では見ることがないような果物や花が陳列され、街中は独特の匂いで満ちていた。宗教によって町を歩く人々の服装も異なっており、チャイナタウンやリトルインディアなどの街並みはそこで生活する人々の文化を色濃く反映していた。やや観光に特化したような箇所もあったように思うが、一つの都市の中で多くのものを見ることができたかと思う。多民族で構成されているシンガポールだからこそできる貴重な経験であった。

また、シンガポールと言えれば外すことができないマライオン公園にてクラス毎の集合写真を撮ることができた。修学旅行に行く前に生徒の多くがシンガポールに抱いていたイメージの大半がマライオンやマリーナベイサンズであり、実物を見た生徒たちは大いに喜んでいた。

④シンガポールは加害の歴史を学習できる場所でもある。日本軍が英国、オーストラリア等の捕虜を収容していたチャンギ監獄は、日本人としては複雑な心境での訪問であったかと思う。日程的に生徒たちの多くに疲れが見える時間帯での訪問であったため、正しく展示を読み取れた生徒

がどのくらいいたかは定かではないのが残念ではあるが、是非歴史から学ぶ謙虚さのある人間になって欲しいと願う。

その他にもシンガポール国立博物館を訪れた。様々な展示があり、シンガポールの発展の歴史を垣間見ることができたように思う。ここでも英語という言葉の壁があった。当然すべてが英語の展示であり、生徒たちからすれば内容の理解は非常に難しかったようである。だが、少しでも何かを感じ取ろうとじっと展示を見る姿も見受けられ頼もしく感じる場面もあった。

移動を含めて五日間という日程では、シンガポールの魅力をすべて見ることもできず、ましてや英語の能力が劇的に向上することは大変難しいと思う。しかし、今回の旅行が何かのきっかけになってくれたのであれば幸いである。海外に行くことで改めて日本の良さに気付いたり、家を離れることで普段親に当たり前のようになってしまうことに感謝をしたり、もっと英語を勉強したいと思えたり。列挙すればきりが無いが、これからの生徒の成長に期待したい。

最後に、今回の旅行を実施するにあたりご尽力いただいたすべての方々に感謝を申し上げます。

(以上 白田)



セントーサ島・シロソ岩にて

終わりに

三年間続いた台湾修学旅行から二〇〇六年以来のシンガポール修学旅行を実施した。正式には「シンガポール共和国」。マレー半島の南端、赤道の一三七kmに位置し六〇以上の島で構成されている。一八一九年トーマス・ラッフルズがイギリス東インド会社の貿易所を設立した。一八二六年にイギリスの植民地となる。第二次世界大戦では日本が占領し「昭南島」と呼ばれた。現在では、貿易、金融の中心地のひとつである。法律が厳しいことでも有名で、罰則の対象となるのは「ガムの持ち込み・電車内での飲食・ごみのポイ捨て等々」数多くあるが、厳しい法律で街がきれいに保たれ、治安が良いのもそのせいかもしれない。また教育政策に力を入れおり、義務教育制度ができたのは二〇〇三年にもかかわらず教育レベルは世界でもトップクラスである。

旅行先は変わってもその目的の四つ①国際交流②生徒主体の集団行動③異文化体験④歴史学習はほぼ継承されている。①では、学校交流（国内修学旅行時代は実施していない）を行うことにより同世代の高校生との相互理解に努め、実践的な英語力に身に付ける。②では、旅行中の行動において集団行動を意識する。また、ルーム長会が自主規律の原案を立案し、クラス討議・決定・実践という過程を踏むことにより、自主規律への意識を高め、また、今後のリーダー集団づくりにつなげる。③では、その国の自然や文化の違いに触れ、理解を深める。④では、古くは広島・長崎や沖繩修学旅行では被害の歴史を、中国・韓国・シンガポール修学旅行では加害の歴史を学んできた。



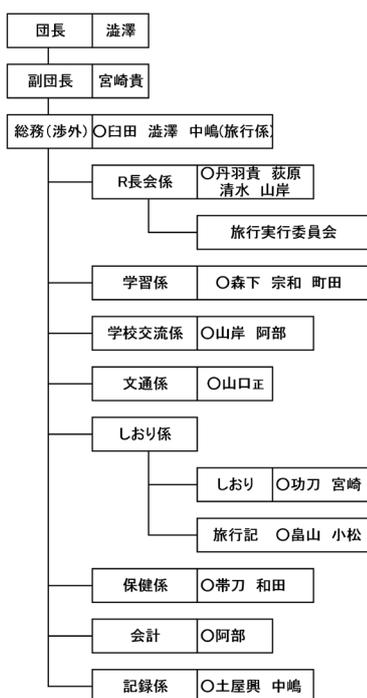
テマセクの先生方との記念写真

多くの生徒が初めての海外旅行だと思う。限られた時間の中で目的を達成するのは難しいと思うが、楽しい思い出をつくと共に、海外で感じ学んだ事をこれからの人生に活かして欲しいという我々の願いがある。

昨年の下見の段階では見学を予定していたマレーシアの下見も行った。十一年前と比べジョホールバルの発展の様は目を瞠るものがあった。交流校やホームステイ受け入れの村も訪問した。しかし、二〇一七年二月十三日に起きた事件の為マレーシアへは見学中止となった。そのためシンガポール国内での交流校を探すことになったが、この時期の学校は中学・高校とも受験があり全国模試を行いその対策を学校全体で取り組んでいるため、学校交流は困難であった。国際教育係の先生方の尽力で、テマセク・カプラン・EFの三校との交流を実現した。本当に感謝したい。この学年は生徒数約三八〇名、飛行機四便を使った。現在、生徒・保護者アンケートを集約している最中であるが、概ね今回の旅行には満足しているようである。しかし日程的に大変ハードなクラスが出てしまった事も事実である。長時間のフライトなど考えると、生徒の十分な休息を確保することも今後は重要と考える。課題と成果を総括し西高のこれまでの修学旅行の伝統を踏まえつつ、さらに充実した修学旅行を学校全体でつくっていききたい。

(以上 澁澤)

修学旅行団組織図



母校での初担任を終えて

3年4組（1年次1年5組）担任 平井進悟

平成三十年三月三日、私の母校である上田西高等学校で担任として初めての卒業生を送りだす。

私が、母校に赴任してきたのは四年前のことである。三十五歳での転職は、想像していたよりも背負うものが多く、このような判断に至るまで数年の期間を要した。前職が教育関係の職場では無かったことから、大学で社会科学の高校免許を取得したものの、十年以上にもおよぶブランクがあり、とても人に指導できるレベルではなかった。しかし、ひと度教壇の前に立つとなれば私のこれまでの肩書など一切関係なく、教科の指導で収入を得ることから、プロフェッショナルとしての責任を果たさなければと、力不足の自分に対し常にプレッシャーをかけ続け、今日に至る。そんな私が、教師としての仕事の価値観を大きく変えられた出来事が起こった。初めての担任業である。

こんなに御礼を言われる職業が他にあるのだろうか？担任となり、ささいなことをしただけでも関わらず、今までに経験のない程に御礼を言われる日々を過ごしてきた。前職がサービス業であった私にとって、御客様から御礼を言われることは稀なケースであり、仕事に対して遣り甲斐を感じる瞬間でもあったのだが、こうもハードルが低いと調子が狂う。「これは勘違いするかも・・・」、教師という職業は、世間で言うところの「殿様商売」に陥りやすい環境でもあると実感した。自分自身の立場を常に客観的に捉えるよう、身の丈をわきまえるよう、職場の同僚においては年齢や経験も関係なく敬語を用いることから始めた。いつしかその取り組みは、日常生活にも浸透してきている。担任として、授業以外にも生徒に指導する機会も増えたのだが、自分自身の行動についても軽率にならぬよう心掛けるきっかけとなった。初めてのクラス運営は、生徒や保護者にも恵まれ、想定していたよりも順調に展開することができた。恐らく、私の知らないところで同僚や職場の配慮も大いにあったことは間違いない。私が、この学校の出身者であることも

プラスの要因だと感じる場面も多かった。年代の違いはあるものの、生徒と共通な立場を経験してきたことは、生徒と接するうえで役に立つ場面が多かったのも事実だからだ。

担任業で最も困難だと感じたことは、生徒や保護者との距離感であった。担任となり、伝えることばかりではなく話を聞く場面も同じくらい経験してきた。伝える時は、タイミングやシチュエーションを私の都合で調整できることが多かったが、話を聞くタイミングの多くは相手の都合が多く、未熟な私にとって準備不足により十分な成果をあげられない場面も多々経験してきた。その時に感じたことが距離感による問題解決の複雑化である。距離が遠すぎて問題の核心に迫れないこともあれば、距離が近すぎて必要以上の情報が入り、判断に迷う場面も経験した。性別の違いや性格の違い、家庭環境の違いにより適度な距離感を判断するのは、現在進行中の課題となっている。

担任として初めての卒業生を送るにあたり、正直なところまだ実感が湧かない。生徒一人一人を振り返れば、まだまだ伝え足りないものや不安に感じている現状があり、役目を充分に果たせていないと感じているからだ。でも、生徒達は次のステージに向けスタートを切ろうとしていることも理解している。早く私が子（生徒）離れをしなくては・・・。そんな気持ちのまま卒業式を迎えようとしている。



平成 27 年度 1 年 5 組



3 年 4 組

家庭学習の習慣化指導

一学年進路係 井口 義啓

低学年、特に入学直後の一学年にとって、いかにして家庭学習を習慣化させるかは大きな課題です。家庭学習時間と基礎学力定着の密接な相関関係についてはすでに実証されているところであり、学年会としては全生徒に最低「平日一時間以上・休日二時間以上」の家庭学習をするよう指導しています。平常授業日であれば各教科から予習復習課題が出されて、生徒はそれに沿って継続的に一定の学習時間を確保することができます。しかし、夏休みなどの長期休みには課題を設定するものの、生徒の取り組みは毎日継続的になっているとは言い難いという状態でした。

高校時代の家庭学習時間の推移は、ある全国的な統計によると、高校入学時は高校生活への緊張感もあり比較的高い割合を維持するものの、そこから高校生活への慣れも手伝って減少し始め、一年十一月期に底を打つそうです。そして驚くべきことに、その水準のまま、三年生まで継続していくというのです。

夏休みを迎えるにあたって、学年会としては何とかして長期休み中にも毎日一定の家庭学習を重ねられる環境を整えたいと考えました。そこで導入したのが、インターネットを利用してオンラインの講義を視聴するサービスです。休明けに確認テストを実施することを予告し、通常授業と同じように板書等をノートに書き留めることも併せて課しました。学年会から宿題として配信したのは、各個人が優先的に取り組むべき苦手分野十本（国語三本・数学三本・英語四本）の講義ですが、各生徒の意欲に応じてさら



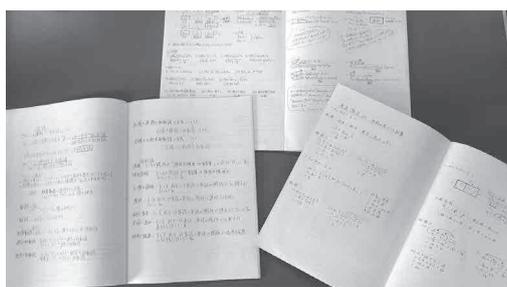
担当者によるスタディサプリの説明

に視聴することもできます。

配信にあたっては、事前に各生徒の家庭におけるインターネット環境を調査し、全員がオンラインで講座を視聴できる環境を確認しました。配信後は、必要に応じて学校施設を学習室として開放したり、部活動単位で一斉に学習時間を設けたり、関係各所の協力もあり、ほぼ全員の生徒が期限内に課題を完了することができました。

多くの生徒が学年会の想像以上に意欲的に取り組んでおり、特に熱心に取り組んだ生徒には学年集会で表彰を行いました。長期休業明けに実施した確認テストでは、嬉しいことに学年全体で入学時に比べて、得点ベースで約三%の学力伸長が見られました。しかし同時にを行った家庭学習時間のアンケートにおいては、入学時に比べて学習時間が減少している傾向が見られました。

今後の課題として、長期休み等にはオンラインの講義も併用しながら、授業においても各科目で出されている課題を該当クラスの教科担当者全員が共有し、生徒にとって適切な量の課題が出されて、十分な家庭学習時間を確保できる状態が継続するように、引き続き取り組んでいく必要があると考えます。



スタディサプリ学習ノート



スタディサプリの説明会

進路を見据えた校外学習

一学年ルーム長会担当 山浦 天

去る十一月九日(木)に一学年は校外学習を行いました。今年度の一学年の校外学習は、毎年行われている校外学習に、より「学習の要素」を組み込んだものがよいということになり、大学見学を行うことになりました。早速各クラスのルーム長、副ルーム長から構成される組織であるルーム長会を招集して対応を検討したところ、数回のルーム長会を経てコンセプトが決定し、実行に移されました。決定したコンセプトは「実際に大学に行くことで大学の雰囲気を知るだけでなく、自分の将来性を広げていく。また一人ひとりが班で行動することを意識し、集団行動の大切さを学ぶ」というもの。今回の校外学習を「進路実現のための意識づけ」と、「来年の修学旅行を見据えての集団行動」と定義つけた結果です。

私自身生徒会の顧問を務めている影響もあるかと思うのですが、行事やイベントを行う際のコンセプト作りや意義の確認は非常に重要な作業であり、その行事が成功するか失敗するかを大きく左右するものだと考えています。そのことが生徒たちにも伝わる部分もあり、この点においては収穫でした。決定したコンセプトは学年会の承認を経て正式に決定しました。

ここまでは比較的スムーズに進んだわけなのですが、では一体どうやって「進路についての意識づけ」をしつつ「来年の修学旅行を見据えての集団行動」をとらせるのかというものがなかなか決まらずに苦勞しました。進路については大学見学を行うことがは決定していたものの、どのような大学を見学するのか、また、東京都内を一学年の約三百人が移動するとなったときに、どうやって安全を確保するのかなど課題は山のようにありました。ルーム長会も何度も開かれたわけですが、昼休みの限られた時間では間に合わない部分もあり、放課後も使い検討を重ねました。部活等で出席できない生徒もいる中、少数精鋭での検討となりましたがだんだんとゴールが見えていくのを皆で実感できたと思います。

見学する大学は都内の中心部以外を設定してしまうと帰ってこられなく

なってしまう可能性もあったので、なるべく遠くないところで、なおかつ有名大学を見学するという方針を決定し各クラス希望をとりました。この頃コンセプトの二つ目の「来年の修学旅行を見据えての集団行動」についても話が進んでいき、班別での行動が決定しました。しかし、ここで難しい問題に直面します。それはどのように班編成を行うかでした。一学年では五月の学年行事の日に上田市内のオリエンテーリングを行いました。この行事は「地元についての理解を深めるとともにクラスのみんなと仲良くなる」というコンセプトの下で行われ、班編成は各クラス話したことがない人同士でなおかつ男女混合などの基準で行われたため比較的容易でした。今回はある程度人間関係ができた中での班行動であること、また、行事のコンセプトが「仲良くなる」から「進路実現」というように変わっていたため、見学したい大学別で班編成を行いました。どういった基準で班分けをするか二転三転する場面もありましたが、最初に決定したコンセプトに従って意思決定を行うことができました。来年の修学旅行も班行動をとることが予想されます。班編成の基準等これから議論になるかと思いますが、ルーム長会の生徒には今回学んだことを生かして、クラスをリードしてほしいと思います。

見学する大学についても前述した基準で班分けが行われ、徐々に決定していきました。具体的には東京大学(文京区)、早稲田大学(新宿区)、慶應義塾大学(港区)、立教大学(豊島区)、明治大学(千代田区)、青山学院大学(渋谷区)、日本経済大学(渋谷区)、文化学園大学(新宿区)、日本赤十字看護大学(渋谷区)と有名大学または、自分の気になる進路に合わせた大学選択ができたかと思えます。青山学院大学は大学の都合により見学ができなくなりましたため国学院大学(渋谷区)が追加されました。

見学する大学が決定し、班編成も進む中次なる課題はスケジュールの組み



慶応義塾大学にて

立てて了。今回の校外学習では大学見学が当然メインとなるわけですが、宿泊を伴う行事ではないため、早朝に出発し、一九時頃には学校へ帰るというスケジュールをどう管理するかが課題でした。都内の混雑を避けるため早朝学校を出発したバスは埼玉県の川越市で停車し、そこからは東武東上線で各班都内へ出発するというものであったので時間管理は必須です。ルーム長会では各班がどういった行動をとるのかをまとめる行動計画用紙を作成し班長に提出させ、担任の先生に確認してもらおうようにしました。これにより各担任の先生は自分のクラスの班行動を把握でき、班員はいまなにをしなければいけない時間なのか明確になりました。この行動計画用紙には乗車する電車名や出発時間、運賃などの記入欄もあり、必要経費を把握するうえでも役に立ったと思います。

川越に到着する時間が十時くらいと設定されており、東武東上線が池袋駅に到着する時間はおよそ十時半と読んでいました。都内で大学見学を行い、また川越に戻るまでには十分余裕がある時間設定です。もしかすると大学見学をせずに都内を遊び歩く生徒もいるかもしれません。そこで都内各所にチェックポイントを設定して、そこを必ず通ることが決まりました。川越から池袋に出てそこから大学見学に行き、チェックポイントを通過するという一連の流れが完成しました。問題はこのチェックポイントをどこに設定するかであったのですが、見学する大学からほどよい距離感にある場所を選択しました。具体的には渋谷区のNHKホール前、新宿区の新宿御苑、港区の東京タワー、文京区の東京ドームシテイの四箇所です。ここでは教員が交代で立ち、事前にそれぞれのチェックポイントを通過することを確認している班が全員で通過するか確認を行いました。また緊急時の対応として借用の携帯電話をチェックポイントにいる教員が持ち、生徒に何かあった場合に即連絡できる状況を作りました。各担任はクラス全員分の携帯電話の番号を把握し、万一の時にはすぐに連絡できるような状態も作りました。これは実際にかなり有効に機能し、遅刻しそうな場合、または、集合時間までに現れない生徒がいた場合に相互に連絡をとることができました。

このような事前準備を行って校外学習に臨んだわけですが、当日には予期しない事態が多々発生しました。「電車に乗り遅れた」、「バスの駐車場から川越駅までが意外と遠い」「予定の集合時間に大幅に遅刻してしまう」などあつ

たわけですが、出発したすべての生徒が無事に戻ってくることができました。そういったことを踏まえると、二つ目のコンセプトである「来年の修学旅行を見据えての集団行動」の達成具合は微妙なものであったと言わざるを得ません。しかし、今回のうまくいかなかったことはルーム長会としては大きな収穫です。来年にはシンガポールでの修学旅行が控えています。今回は東京都内を中心とした集団行動であったわけですが、シンガポールで同じような失敗をするわけにはいきません。「時間厳守を徹底するためにはどうすればよいか」、「班行動を徹底するにはどうしたらよいか」、「緊急事態が発生した場合の対応について」、「コンセプト設計の仕方」など今回できたこととできなかったことをしっかりと整理し来年につなげられるようにしたいと思います。

今回の一学年の校外学習については学年全体での班行動を都内で行うという非常に大がかりなものとなったわけですが、生徒にアンケートを取ったところ、「校外学習が有意義なものとなった」と回答した生徒は学年の七三%のほり、多くの生徒が満足した内容のものであったことがわかります。また「校外学習で進路を意識できた」と回答した生徒も実に六〇%のほり、狙い通りとなりました。四〇%の生徒は進路を意識できなかったわけですが、これは専門学校志望の生徒によるものが大きいと思われれます。実際にアンケートにも「専門学校を志望しているので専門学校を見学したかった」という意見もあり、そういったところまで網羅できなかったのは反省すべき点です。しかし、日本でもトップクラスの大学が集中する東京の空気を感じ、大学とはどういう所か肌で感じる機会が貴重であったと思います。都内の複雑な交通事情も長野県においては体験できません。さまざまなことを感じることでできる有意義な校外学習であったと思います。来年の修学旅行ではルーム長を中心とした生徒主体のものを作り上げられる指導をしたいと思っています。



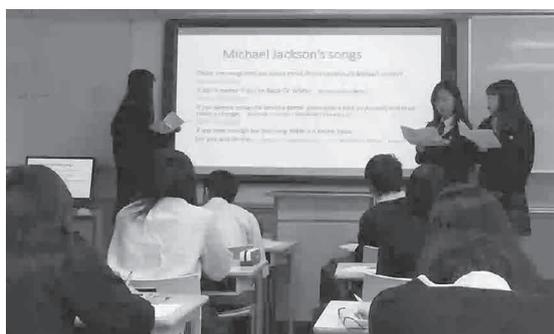
早稲田大学にて

進路情勢の変化とその対応

進路指導主事 片桐 拓磨

文部科学省が進める教育改革に伴い、全国の高等学校がそれぞれの進路指導の在り方の検討と再構築を求められています。未確定の要素もある中で本校はどのように対応しており、そして今後どのように進んでゆくのでしょうか。そもそも、次年度高校に入学する生徒の進路指導においては二つの新テストについて対応する必要があります。一つ目は、「高校生のための学びの基礎診断」です。このテストの目的は「義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を図るため（「高校生のための学びの基礎診断」実施方針 文部科学省 より抜粋）とされています。つまり、高校生に学力を身につける教育活動を学校で行い、その成果を認定業者のテストによって確認させるということです。二つ目は「大学入学共通テスト」です。現在の「センター試験」を廃止し、新たに実施するテストです。国語・数学では論理的思考力読解力を問われるとともに、記述式の問題が導入されます。また、英語のテストが廃止され、四技能を測ることのできる外部の検定等の結果を受験で使用することになります。つまり、大学に進学しようという高校生には、論理的思考と表現力、コミュニケーションツールとして使用できるレベルの英語力の習得を求めているということです。

では、この教育改革に向けて本校はどのように対応を進めているかを次に記載させていただきます。最初に「高校生のための学びの基礎診断」に求められる基礎学力の向上です。現在本校では、生徒全員にインターネットを利用してオンラインの講義を視聴するサービスを導入しています。その成果等は別項の「家庭学習の習慣化指導」



「ワールドスタディズⅡ」でのプレゼンテーション

をご覧ください。ですが、学習をしようという意欲向上や、基礎学力向上に一定の成果を上げています。部活動等で多くの学習時間を確保することが難しい生徒でも、通学途中等の空き時間で少しでも学習を進めることができます。また、自分の苦手な分野を義務教育の内容に戻って学習することが可能な点は、中学校時代に苦手意識を持ってしまった科目についても挽回が十分可能になり、高校卒業後の進路の幅も大きく広がります。

次に、「大学入学共通テスト」及び、英語四技能の習得及び外部検定の活用についてです。論理的な思考力、読解力と記述力の対応については、新たに「語彙・読解力検定」等の受験指導の一環として、語彙力や文章読解力の養成を行うとともに、ステージ週間でのレポート作成を通じて、論理的な思考とプレゼンテーション能力の養成に取り組んでいます。また、英語四技能の能力向上においては、本校の独自の長短期留学制度に加え、ステージ週間におけるセブ島への語学留学研修、さらに定期的にオーストラリアの姉妹校からの留学生を受け入れているため、同年齢の生徒と英語をツールにしたコミュニケーション能力の向上が見込まれています。留学生には授業にも参加してもらい、本校の生徒四〜五名に対して留学生一人といった小規模でのグループワークにも取り組んでいます。また、通常の授業に加え、一年生に「グローバルクラスメイト」の授業を取り入れました。アメリカやシンガポールの高校とオンラインでつなぎ、英語によるコミュニケーションを定期的に行っています。一つのトピックについて、お互いの意見を英語で交換するなど、高度な授業が行われています。また、二、三年生では「英語表現」の授業において、パワーポイントを利用したプレゼンテーションやディベートなどの授業を展開しています。三年生の「ワールドスタディズ」の授業では、「砂漠化」について英語でプレゼンテーションを行ったり、英語での海外文化や地理等の学習を行うことで、より多面的に海外への知識を身につけるとともに、高度なプレゼンテーション能力の向上等を目指しています。

そもそも国際交流という点において、本校は長い伝統と豊富な知識があります。そうした点においても文部科学省が進める海外で活躍できる日本人の育成においては、既に先進的かつ実践的な教育を行っているといえます。

本校での以上のような取り組みは、あくまで国際化の進む今後の社会において、生徒たちの活躍の場を少しでも広げることができるよう本校が行う取り組みの一つに過ぎません。生徒の将来の活躍の一助となるよう、本校での教育活動は、今後ますます先進的に行われるに違いありません。

西高生の活躍

生徒会係

運動部

○野球部

春季県大会 3位 選手権県大会ベスト8 秋季県大会ベスト8

○男子バレーボール部

県高校総体 ベスト8 全国私学大会県予選会 ベスト4
全国私学大会北信越大会 出場

○女子バレーボール部

県高校総体 ベスト16

○男子バスケットボール部

県高校総体 出場 県新人戦 出場

○卓球部 男子

県高校総体 団体出場 シングルス ①箱山楓出場
ダブルス ①箱山楓・①瀬下怜音二回戦敗退
県新人戦 団体出場 シングルス ①箱山楓ベスト8 (一年生県四位で
北信越選抜出場)
北信越一年生選抜大会 ①箱山楓出場

○卓球部 女子

県高校総体 シングルス ②春原満里奈出場 ダブルス ②鈴木恵里加・
②関玲奈出場
県新人戦 女子団体出場

○硬式テニス部 男子

県高校総体 団体ベスト4 シングルス ③藪田樹彩亜ベスト16
ダブルス ③藪田樹彩亜・③内山雄介ベスト16 ③鈴木涼斗・
③北沢勇志ベスト16
全日本ジュニアテニス選手権県予選
シングルス ③藪田樹彩亜ベスト8
ダブルス ③藪田樹彩亜・③内山雄介ベスト8

U16 シングルス ①中島徹太ベスト16

①中島徹太ベスト16

ダブルス ①中島徹太・①塩川和生ベスト16

県新人戦 (全国選抜高校テニス) 団体 3位

全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会県予選 シングルス ①中島徹
太ベスト16

県高校新人テニス選手権 男子A級シングルス ①中島徹太ベスト16

ダブルス ②古橋陸・①中島徹太ベスト8
②内堀広大・①塩川和生ベスト16

ダンロップ一年生チームダブルス対抗戦 準優勝

○硬式テニス部 (女子)

県高校総体 団体ベスト8

シングルス ③倉島佳那ベスト16

ダブルス ③倉島佳那・竹内愛裕ベスト16

全日本ジュニアテニス選手権県予選U16

シングルス ③倉島佳那・③水出羽奈 (上田) ベスト4 ②竹内愛裕・

②山岸杏美ベスト16 ③塩川由菜・②清水葵ベスト16

U16シングルス 寺島綾菜ベスト16

団体テニス競技県予選 ②山岸杏美ベスト16

県新人戦 (全国選抜高校テニス) 団体ベスト8

県高校新人テニス選手権 女子A級シングルス ②竹内愛裕ベスト16

ダブルス ②山岸杏美・②清水葵ベスト

YONEX Xmas Cup 2017 団体準優勝

ダンロップ一年生チームダブルス対抗戦 3位

○柔道部 男子

県高校総体 団体戦出場

個人戦 60kg級 西野入嵩 出場 66kg級 藤澤翔 出場

90kg級 小平和実出場 100kg級 池田進太郎出場

県新人戦 出場

個人戦 60kg級 西野入嵩 出場 66kg級 藤澤翔 出場

90kg級 小平和実第5位 100kg超級 池田進太郎第5位

○柔道部 女子

県高校総体 団体戦出場

個人戦 52kg級 中曽根彩香 出場 57kg級 坂井エリナ

県新人戦 出場
団体戦 第3位
個人戦 52kg級 中曽根彩香 出場 57kg級 坂井エリナ第3位

○剣道部 男子

県高校総体 団体ベスト16
県新人戦 団体一回戦敗退 個人 ②小泉丞出場
選抜県予選 団体出場

○剣道部 女子

県高校総体 団体ベスト16
県新人戦 団体ベスト16 個人 ①山浦楓出場
選抜県予選 団体ベスト16

○サッカー部 男子

県高校総体 3位 県1部リーグ 4位 県高校選手権 優勝
全国高校選手権 3位 県新人戦 ベスト8

○サッカー部 女子

県高校総体 3位 皇后杯県大会(全日本女子サッカー選手権) 出場
県高校選手権 4位 県新人戦 4位
県女子サッカーリーグ2部 準優勝

○バドミントン部 男子

県高校総体 学校対抗 出場
シングルス 青木康太 出場ダブルス 青木康太・大井勇輝 出場

国民体育大会長野県予選 男子シングルス 青木康太、大井勇輝 出場
男子ダブルス 大井勇輝・久保山魅咲 出場

○バドミントン部 女子

全日本ジュニア選手権予選 女子ダブルス 笹澤奈津弥・白石菜花 出場
県新人戦 学校対抗ベスト16 女子シングルス 宮下さくら 出場

○陸上部

高校総体県予選 3000m障害 3位 ③長谷川潤
400mハードル 5位 ③高橋うらら
高校総体北信越予選 3000m障害 2位 ③長谷川潤
400mハードル 準決勝敗退 ③高橋うらら

全国高校総体 3000m障害 予選敗退 ③長谷川潤
全国高校選抜 2000m障害 2位 ③長谷川潤
10000m 19位 ③甘利大祐

○山岳部

県高校新人戦 1500m 8位 ②矢野大和 走高跳 8位 ②土屋みやび
県高校駅伝 男子4位
・登山競技
県高校総体 女子団体4位
・クライミング競技

県クライミング大会兼北信越国体予選会 田中ひかる 少年女子県代表

北信越国体 田中ひかる 出場

全国高校選抜選手権県代表選考会 男子 4位 櫻井一樹

女子 1位 荒井風香 2位 荒井優鈴 3位 田中ひかる

全国高校選抜スポーツクライミング選手権

女子個人 73位 荒井風香 77位 荒井優鈴 学校対抗女子団体 17位

○レスリング部 男子

県高校総体 学校対抗戦 優勝
個人戦 50kg級①佐々木風雅 55kg級①大橋寛介 66kg級①稲葉洋人 74kg級①竹内裕斗 84kg級①田口伊織

120kg級①花岡明登 55kg級②曾根敬次郎 96kg級②小林龍太 60kg級③保志直輝 66kg級③佐藤拓夢

北信越総体 学校対抗戦 準優勝

個人戦 55kg級①大橋寛介 74kg級①竹内裕斗 120kg級①花岡明登 50kg級②佐々木風雅 84kg級②田口伊織
55kg級③曾根敬次郎 66kg級③稲葉洋人

高校総体 学校対抗戦 2回戦敗退 「20回出場記念表彰」

個人戦 55kg級大橋寛介 74kg級竹内裕斗 ベスト8

県新人戦 学校対抗戦 優勝

個人戦 50kg級①佐々木風雅 55kg級①大橋寛介 66kg級①稲葉洋人 120kg級①小林龍太 55kg級②曾根敬次郎
60kg級②保志直輝 66kg級②滝澤建介 74kg級②佐藤拓夢

北信越選抜 学校対抗戦 準優勝

個人戦 55kg級①大橋寛介 55kg級②曾根敬次郎 66kg級②

稲葉洋人 120kg級②小林龍太 50kg級③佐々木風雅

66kg級③滝澤建介 74kg級③佐藤拓夢

全国選抜 学校対抗戦・個人7名 出場予定

50kg級佐々木風雅 55kg級大橋寛介 55kg級曾根敬次郎 66kg級稲葉洋

人 66kg級滝澤建介 74kg級佐藤拓夢 120kg級小林龍太

○レスリング部 女子

県高校総体 個人戦 60kg級①井出千晴 北信越総体 個人戦 60kg級①

井出千晴

全国高校総体 個人戦 60kg級 井出千晴 ベスト8

○アーチェリー部 男子

県高校総体 団体2位 北信越校選手権 出場 全国高校選手権 佐

藤京介 出場

○アーチェリー部 女子

県高校総体 団体2位 北信越高校選手権 出場

○ハンドボール部

県高校総体 出場 県高校新人戦 出場

○フットサル部

全日本ユースU18県大会 3位

DUELO U18 フットサルリーグ 準優勝

選抜トーナメント 県選抜チーム選考会 関ギレメ 中村海渡 井出優斗

上記3名選出

ユースフットサル選抜トーナメント2018北信越大会 出場

関ギレメ 中村海渡 井出優斗

○軟式野球部

春季県大会 3位 選手権県大会 3位 秋季県大会 優勝

秋季北信越大会 優勝

文化部

○吹奏楽部

県吹奏楽コンクール高校部門 小編成の部 銀賞

県マーチングコンテスト県 ニューカマーの部 優秀賞(県代表)

東海マーチングコンテスト ニューカマーの部 優秀賞

○書道部

全国書道展(大東文化大学主催)書道研究所所長賞 武井恭香

県高校総合文祭(信州総文祭プレ大会)武井恭香他5名出品

○美術部

県高等学校美術展 「青春」 F50号キャンバス(アクリル)保坂桃寧

「化粧」 B1パネル(水彩)山下ちはる

○華道部

長野地区・学生いけばな競技会 参加

○軽音楽部

高文連県大会 出場 バンド「すましろ」上野智也(d)、岡田宗記(g)

長井志苑(b)、伊部竜矢(g・v.o)

その他

○なぎなた

全国高等学校選抜 宮原菜摘 出場

○キックボクシング

K1甲子園高校生日本一決定トーナメント 65kg級 手塚公希 3位

○数学科

全国数学選手権(数学甲子園) 予選出場

宮寄龍一・青木雄大・青山加奈・中澤友美佳・和田ゆめか

○国語科

・うえだ七夕文学賞

優秀賞 花火背に二人の影が重なった 北澤舞香

優秀賞 願い書き笹にとどかず子がすねる親がおぶって願いを結ぶ 内田玲穂

秀逸賞 つばめの子飛ぼう飛ぼうと羽をひろげ巣立った後の心悲しき 内田玲穂

他、入選10人

・おいしいお茶新俳句大賞

佳作特別賞 満月を打つてみたいなホームラン 春日拓海

・第三十一回 東洋大学全国学生百人一首

入選 入学時むすべなかつたネクタイも今ではちゃんと一人前 宮坂康平

平成 29 年度 上田西高校進路合格実績一覧 (平成 30 年 2 月 23 日現在) ※延べ人数

・発表前のため、推薦以外の国公立大学については未掲載です。

【四年制大学 (国公立)】

大学名	学 部	人数
鹿屋体育大学	体育学部	1
長 野 大 学	環境ツーリズム学部	2
	社会福祉学部	1
横浜市立大学	データサイエンス学部	1
高崎経済大学	地域政策学部	1
合 計		6

【四年制大学 (私立)】

大学名	学 部	人数
愛知大学	地域政策学部	1
桜美林大学	経済学部	1
神奈川大学	経済学部	1
	工学部	1
	法学部	2
金沢工業大学	工学部	1
	情報フロンティア学部	1
関東学院大学	経営学部	1
	法学部	1
共栄大学	国際経済学部	2
京都産業大学	法学部	1
群馬医療福祉大学	リハビリテーション学部	2
群馬パーソンズ大学	保健科学部	2
工学院大学	先進工学部	1
	経済学部	1
國學院大学	文学部	1
	政経学部	2
国際医療福祉大学	医療福祉学部	1
	保健科学部	2
国士舘大学	体育学部	2
	法学部	1
駒沢女子大学	人間総合学群	2
	仏教学部	1
駒沢大学	文学部	1
	人間学部	1
埼玉学園大学	人間学部	1
埼玉工業大学	人間社会学部	2
相模女子大学	学芸学部	1
佐久大学	看護学部	1
	経営学部	1
城西大学	経済学部	1
	現代政策学部	1
上武大学	ビジネス情報学部	1
白百合女子大学	人間総合学部	1
	経済経営学部	1
駿河台大学	現代文化学部	1
	心理学部	2
	法学部	2
清泉女学院大学	人間学部	1
西部文理大学	看護学部	1
専修大学	経営学部	1
	経済学部	3
洗足学園音楽大学	ネットワーク情報学部	1
	管楽器コース	1
大東文化大学	外国語学部	1
	文学部	2
高岡法科大学	法学部	1
高崎健康福祉大学	保健医療学部	1
高崎商科大学	商学部	2
拓殖大学	外国語学部	1
	観光学部	1
玉川大学	経営学部	1
	農学部	1
	リベラルアーツ学部	1
中央大学	商学部	1
中京大学	経済学部	1
	経済学部	2
帝京大学	文学部	3
	文学部	3
桐蔭横浜大学	スポーツ健康政策学部	1
東海学園大学	スポーツ健康科学部	1
	基礎工学部	1
東海大学	文化社会学部	1
	文学部	1
東京工科大学	コンピューターサイエンス学部	2
東京工芸大学	芸術学部	1

大学名	学 部	人数
東京電機大学	システムデザイン学部	1
	理工学部	1
東京農業大学	地域環境科学部	1
東京福祉大学	心理学部	1
東洋大学	社会学部	2
同志社大学	スポーツ健康科学学部	1
常葉大学	健康プロデュース学部	1
徳山大学	経済学部	1
獨協大学	外国語学部	1
長野保健医療大学	保健科学部	2
名古屋経済大学	経営学部	1
	人間生活科学部	1
新潟医療福祉大学	医療技術学部	1
日本体育大学	体育学部	1
日本大学	法学部	1
	理工学部	2
日本保健医療大学	保健医療学部	3
浜松学院大学	現代コミュニケーション学部	1
文化学園大学	現代文化学部	1
文教大学	情報学部	1
平成国際大学	法学部	1
北陸大学	薬学部	1
法政大学	現代福祉学部	1
松本大学	人間健康学部	1
	総合経営学部	2
明海大学	歯学部	1
明星大学	経営学部	1
	心理学部	1
武蔵野大学	看護学部	1
	法学部	1
目白大学	人間学部	1
山梨学院大学	法学部	4
横浜薬科大学	薬学部	1
立正大学	社会福祉学部	1
	文学部	1
立命館大学	経営学部	1
流通経済大学	経済学部	1
合 計		127

【短期大学 (私立)】

大学名	学 科	人数
青山学院女子短期大学	現代教養学科	2
育英短期大学	保育学科	2
上田女子短期大学	総合文化学科	2
	幼児教育学科	3
大垣女子短期大学	歯科衛生学科	1
桐生短期大学	アートデザイン学科	1
群馬医療福祉大学短期大学部	医療福祉学科	1
清泉女学院短期大学	国際コミュニケーション科	2
	幼児教育科	4
城西短期大学	ビジネス総合学科	1
戸板女子短期大学	食物栄養学科	1
長野女子短期大学	生活学科	1
松本大学松商短期大学	経営情報学科	1
武蔵丘短期大学	健康生活学科	1
和歌山信愛女子短期大学	保育科	1
合 計		24

【専門学校など】

学 校 名	人数
信州上田医療センター附属看護学校	2
上田福祉敬愛学院	1
上田情報ビジネス専門学校	4
エコール社東京	1
エブソン情報科学専門学校	1
近江時計眼鏡宝飾専門学校	1
大原医療秘書福祉専門学校 水道橋校	1
大原医療秘書福祉専門学校 新潟校	1
大原学園スポーツ公務員専門学校 長野校	5
大原学園スポーツ公務員専門学校 松本校	3
大原簿記ビジネス医療専門学校 長野校	2
大原簿記情報ビジネス専門学校 横浜校	1
大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校 甲府校	1
太田医療技術専門学校	3

学 校 名	人数	
大宮国際動物専門学校	2	
神田外語学院	1	
国音音楽院	1	
窪田理容美容専門学校	1	
黒木学園カレッジオブキャリア	2	
コーセー美容専門学校	1	
小諸看護専門学校	3	
佐久総合病院看護専門学校	3	
資生堂美容技術専門学校	1	
信州医療福祉専門学校	4	
住田理容美容専門学校	1	
多摩美術専門学校	1	
中央工学校	1	
東京医学技術専門学校	1	
東京医療秘書福祉専門学校	1	
東京エアトラベル・ホテル専門学校	1	
東京女子医科大学看護専門学校	1	
東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校	1	
東京スポーツレクリエーション専門学校	1	
東京ダンス&アクターズ専門学校	1	
東京プライダム専門学校	2	
東京マルチメディア専門学校	1	
東京リゾート&スポーツ専門学校	2	
東放学園専門学校	1	
東放学園音響専門学校	1	
長野医療衛生専門学校	2	
長野看護専門学校	1	
長野救命医療専門学校	1	
長野調理製菓専門学校	3	
長野理容美容専門学校	2	
名古屋工学院専門学校	1	
日本工学院専門学校	1	
日本工学院八王子専門学校	3	
日本美容専門学校	1	
日本ホテルスクール	1	
真野美容専門学校	1	
未来ビジネスカレッジ専門学校	1	
横浜歯科医療専門学校	1	
横浜リゾート&スポーツ専門学校	1	
ラメールヘアメイクスクール	1	
山野美容専門学校	2	
HAL東京	1	
合 計		87

【就職】

企 業 名	人数	
アート金属工業株式会社	3	
オリオン機械株式会社	1	
株式会社アーデン	1	
株式会社小諸村田製作所	1	
株式会社 I C A M	1	
木島平村役場	1	
コトヒラ工業株式会社	2	
新光電気工業株式会社	1	
セイコーエプソン株式会社	1	
東京レストランツファクトリー株式会社	1	
長野オリンパス株式会社	1	
長野電子工業株式会社	1	
日東工業株式会社	1	
日本ボディセラピスト協会	1	
松山株式会社	1	
峰村電気商会	1	
ユニオンプレート株式会社	1	
四世アリスインターナショナル(株)	1	
KUA/AINA 軽井沢店	1	
JR 東日本旅客鉄道山台支社	1	
合 計		23

平成 29 年度
上田西高の教育 第 62 号
平成 30 年 3 月 3 日発行
発行：上田西高等学校
印刷：田口印刷株式会社